

アジアの友

The Asia-no Tomo

6-7

JUNE-JULY

2012

<Special Interview>

Dr. H.S. Prabhakar

— 日印国交樹立 60 周年を迎え進化する日印関係 —



TNI 短期留学生

2012年6月11日

修了記念 浴衣スピーチ



4月からABK日本語コースに短期留学を行っていた泰日工業大学（TNI）の学生達が、修了式の日記念の日本語スピーチを行いました。浴衣を着て、この2か月に感じた日本のことタイのことなどを、それぞれが独自の視点から話し、印象的な修了式となりました。



ABK 新校舎建設 進捗状況

古い建物の瓦礫が撤去され、完全に更地となりました。



月刊 アジアの友

2012年6-7月号 第497号

目次

	巻頭
2	<Special Interview> Dr. H.S.Prabhakar 日印国交樹立 60 周年を迎え進化する日印関係
	ご報告
15	初めての日本・初めての留学 ～ TNI 学生 日本短期留学を語る
	留学生の就活
20	フレディ クルニアさん (インドネシア)
	知友会通信
	奨学金情報、イベント情報
	MEMBERS
25	ご入会、ご寄付のご報告 (2012 年 4 月、5 月)
	募金途中報告
27	ABK 同窓生募金 (2012 年 5 月 31 日現在)

<表紙> 荒川区地域町内会のお祭りに参加したタイ TNI の学生達

Special Interview

Dr. H.S. Prabhakar

―日印国交樹立 60 周年を迎え進化する日印関係―



今年国交樹立 60 年を迎えた日印関係は、近年ようやく両国の間に動きが見られるように。2006 年からは両国の首相同士が毎年交互に相手国を訪問、政府高官、経済団体の相互交流も行われている。政治的にも経済的にも関係が深まりつつある日印関係について、研究で来日中のインドの日本研究者 Dr. H.S. Prabhakar (以下、プラバカル先生) にお話を伺った。

今後、両国の関係が強まるにつれインドの日本研究、日本語教育は重要な役割を担うものと考ええる。首都デリーのジャワハルラール・ネール大学 (以下、ネール大学) 国際研究所、東アジア研究センター、日本研究科准教授であるプラバカル先生は、インドの日本研究の中心的人物のひとりであり、日本の政治・経済がご専門だが、日印関係全般に亘りお話しいただいた。

《日本研究をはじめる》

私が生まれたカルナタカ州で当時一番有名な大学は州都バンガロールから 1～2 時間のメスール大学でした。私は、そこを卒業した後、新しい専門分野の国際関係に興味を抱き、これからはインドと世界の国際関係について研究しようと考えました。当時国際関係が学

べるところはデリーのデリー大学とネール大学だけでしたから、1976 年にネール大学の修士課程に入り国際関係を勉強することになりました。そして東アジア研究科に入り、東南アジアを勉強するか日本を勉強するかということになりましたが、東南アジアだと、いろいろな国の文化や言葉を勉強しなければなら

ないので、大変です。一方、日本は言葉も社会も文化も同じですし、またアジアで近代化と国際化は日本から始まったわけですから、日本について研究しようと考え、日本研究を始めたわけです。

インドでは、1955 年に設立されたデリー大学付属の国際研究所 (ISIS ; Indian School of International Studies) で、国際関係と地域研究が公的に始まり、研究学科の一つとして「東アジア研究科 (East Asian Studies)」がつくられ、中国、日本、朝鮮研究が開始された。その後、研究所は 1961 年に独立の学位授与機関となり、更に、1969 年、インディラ・ガンディー首相の時、父親で、故ジャワハルラール・ネルー元首相の名前をつけたジャワハルラール・ネルー大学が設立され、ISIS は 1970 年に開設間もないネルー大学の国際研究学部統合され、現在まで日本研究を活発に行っている。

《日本留学》

私は、ネルー大学の大学院に入学して、日本研究をするようになってから初めて日本語の勉強をしました。大学では、ひらがな、カタカナ、そして会話を学びました。専門の勉強は英語で受講していましたが日本語ができなくても困りませんでした。そして、国際交流基金の論文フェローシップを得て 1983 年 7 月に初めて来日、東京大学で 1984 年 12 月まで勉強しました。その時は、週に 3 回、毎回 2 時間くらい日本語の勉強をして、少し話せるようになりましたが、読み書きは大変でした。読み書きは今でも大変です。

来日後、アジア文化会館 (ABK) に泊り、東京大学の社会科学研究所に通いました。

ネルー大学の指導教授、ムルティー先生⁽¹⁾の紹介で、ABK に宿泊することになったと思います。東大の社研では、石田雄先生のもとで、戦後の日本の政治と社会について博士論文を作成していましたが、東大のほか、週 2 回青山学院大学へも行き、国際ビジネスセンターの林先生の講義を受け、日本の経営と国際ビジネスについても学んでいました。

そして、インドに戻ってすぐ、1985 年からネルー大学で教えることになりました。当時、ネルー大の日本研究センターでは、日本の外交と経済はムルティー先生が、日本の政治と歴史はケサワン先生が教えていましたから、私は日本的経営を教えることになりました。青山学院大学で学んだ日本的経営と国際ビジネスが、大変役立った訳です。ムルティー先生とケサワン先生が定年後は、私が日本の政治と日本政府について教えていましたが、今は、日本の政治と経済を教えています。

次に来日したのは、1995 年ですが、この時はネルー大が国際交流基金の研究助成を得て、私は大学のプロジェクトの一環で来日しました。そして、東京大学の社会科学研究所で日本の経済、特にバブル経済とその崩壊、中小企業等の研究を行いました。それから 2005 年に、国際交流基金のフェローシップを受けて早稲田大学で「国家と地域社会の均衡の変化」についての研究を行いました。

そして今回、再び国際交流基金のフェローシップを受け早稲田大学で研究を行っています。研究期間は、2011 年 8 月から 2012 年 7 月の 1 年間です。ご存知の通り、今年、インドと日本は国交樹立 60 年を迎えましたが、これ

まで長い間両国の関係は非常にゆっくり推移してきました。しかし、2000年に森喜朗首相が訪印後、印日間は多面的に進捗しました。昔は、仏教・文化面だけの交流であり、経済・政治面での交流は少なかったのですが、この10年いろいろな動きがあり、密接になってきています。そこで、今回の研究テーマは、「印日関係の軌跡（2001-2010）」で、この10年の印日関係の変遷とその分析を行っています。

《インドからの日本留学》

インドから日本への留学は、公的な奨学金を得て行く人がほとんどです。現在、文部科学省（文科省）の奨学金は、インドでは毎年38の専門分野から38人が頂いています。そのうち日本研究、日本語が各1名含まれています。その他、今は国際交流基金から日本研究、日本語の論文フェローシップが毎年各1人ありますから、文科省、外務省を合わせ、日本へ留学する奨学金は40人ということになります。今後の印日関係を考えると大変少ない数ですね。しかも38分野の中で、ある分野の応募者がいない場合は、他の分野に振替えられず、キャンセルしなければなりません。もったいないですね。日本に留学しても資格（Ph.D.; 博士号）を取らないで、インドにも帰らず、日本で働く人が増えています。こうした傾向はインド人だけでなく他の国の人もあります。奨学生の選考はインド教育省が募集し行っており、私も関係する分野では意見を求められたり、選考に係わっています。インドは13億近い人口のある国ですから、今の数では大変少ないですね。良好な印日関

係を築いていくためにも留学生は重要な役割を担いますから。

そこで、2000年に森首相がインドに来た時に、奨学生の数を増やしてもらえるようお願いに行きました。森首相はインドでのスピーチで、「今から5年のうちに5000人のインドの若者の交流を行いたい」と言ってましたが、実現は厳しいですね。ちなみに、現在、インドから日本への留学生数は、日本政府の奨学金で来日する長期・短期留学、私費留学を合わせ2011年5月1日現在で、573名（全体の0.4%）です。2010年5月調査では546名だったので27名は増加していますが、まだまだ少ない数です。

一つニュースです。今年2月、東京大学がインドに事務所を開設しましたが、ご存知ですか？ 所在地は、カルナタカ州の州都バンガロールです。私も東大の同窓生なので開所式の招待状をいただきました。ここでは、インドの大学との大学間交流の促進と大学並びに研究機関との協力関係の促進、東大に留学する学生の支援及びその他の日本の大学に留学する人の支援、インドの学術、産業、政府との協力の促進、インドの東大同窓生の活動支援等が予定されています。日本の大学も変化してきていますね。

《インドにおける日本語学習の現状》

インドの日本語教育ですが、1970年代後半、私が、ネール大学で日本語を勉強したころは、デリーでは、デリー大学とネール大学で教えていただけです。あとコルカタのビシュババ

ラティ大学（タゴール大学；日本講座の開設が一番古い）で教えていたので、インド中でたった3大学に日本語講座があっただけです。その後も40年近く、大学で日本語講座が開設されたという話は聞いていません。しかし、最近ようやく印日の政治、経済関係の交流が進む中で、いくつかの大学で新たに日本語講座が開設されています。

大学での日本語学科の開設が難しいのは、インドでは、多数の言語が日常的に話されていることもあり、語学が学問として認知されにくいからです。しかもインドは、1964年から初中等教育で3言語政策がとられ、英語とヒンディー語と地方語の3つの言語を学んでいるので、他の外国語を取り入れるのは実質的に難しい。それにこれまでは日本語を習っても卒業後の就職先もない。だから、大学で日本語を学ぶ人もいない。インドは大学も財政的に厳しいので、当然そうした学科を新設する大学はありません。

インドでも就職は、まず専門の能力が重要で、それに語学力、特に英語が使えれば就職先は世界中に広がります。だからインドの大卒者は、専門能力を身につけ、高いサラリーの職を求めて海外に出てゆく人も多い。留学先が欧米であれば、銀行でローンを組んでも私費で行く人はたくさんいます。英語ができれば言葉の問題もなく、短期間で目的の教育が終了でき、しかも卒業後就職も可能ですから。しかし、日本留学は、日本語を習得するのに時間がかかるし、英語も使いませんし、大学で資格を取るのに時間がかかる。しかも、就職も難しいです。そして、インドへ帰って



も日本語を使うところはありませんから、欧米組のように、銀行でローンを組んで日本へ留学しようとする人はいませんし、銀行もお金を貸しません。こうした状況はなかなか変わらないと思います。私も自費で日本に留学しているインド人には一度も会ったことがありません。

ただ今は、印日の経済関係が進展して2011年には約800社の日系企業がインドにある時代ですから、もし日本の会社と日本の銀行と文科省が一緒に新しいプログラムを作り、インドの大学生が日本の銀行からお金を借りて日本へ留学し、大学・大学院卒業後、どうぞ日本の会社に入ってくださいと言うことになれば、みんな喜んで日本に行きますよ。そして、借りたお金は仕事を始めてから返すという契約をすれば、みんな一生懸命学び、働くと思います。

確かにこの10年の印日関係は政治的にも経済的にも緊密になってきています。それと

ともに日系企業への就職や日本での就職、留学等を目的とした日本語学習者が増加しています。加えて、インド政府は、2002年からIT技術者及びIT専攻の学生に対する日本語学習補助金制度を始めたり、2006年には高校卒業試験実施機関の一つであるCBSE (Central Board of Secondary Education; 約9000校がその傘下にある) が選択科目の一つに日本語を導入したこともあり、デリーを中心に私立学校でも日本語を教えるところが増えています。そして、2006年以降に、5～7の大学が日本語科、日本語講座を新たに設置、導入しているようです。しかし、日本語教育機関では日本語講師の教育を積んだ講師がほとんどいないのが現状です。もちろん日本人の日本語講師は、公的な機関でもほとんどいませんから、ぜひ日本人の先生にインドに来て教えて欲しいですね。ちなみに国際交流基金の調査では、2009年度のインドの日本語学習者数は18,372人となっています。まだまだ少ないですね。これから日本の企業が増えれば、日本語の需要は必ず増え、大学でも、民間の学校も日本語学習者が増加することは間違いありません。特に、今は企業活動が盛んになってきている南部のバンガロール、チェンナイ、ハイドラバードで、教えたらよいと思います。バンガロールにはIT会社が大変多いし、レベルの高い工科大学もあって、エンジニアも多いですから。しかし、バンガロールには欧米からの企業はすでにたくさんありますが、日本からの企業はまだ少ないです。

バンガロールはインドでも気候が一番いいので、外国からの会社の誘致には最適な場

所です。日本大使館もこれまで、デリーとコルカタとムンバイとチェンナイに領事館を置いていましたが、最近バンガロールにも領事館を置き、活動を始めています。ぜひABKもインドに来て下さい。すでに、バンガロールには、トヨタの学校⁽²⁾があり、日本語も教えています。元駐日インド大使のセツトさんが日本と協力して、IIT インド工科大学 (IIT ; Indian Institute of Technology 工学と科学技術を専門とするインドの15の国立高等教育機関の総称) ボンベイ校で日本語講座を開設しています。また、東京で私の知り合いのインドレストランのオーナーはバンガロールで日本語学校を開校しています。プネではだいぶ以前から日本語を教えています (プネ印日協会; ABK 同窓生が開始)。チェンナイにも、ABK の同窓生が開設した日本語学校があります⁽³⁾。現在は、色々なレベルの日本語を教え、日本語検定試験も行っています。また、日本文化の紹介をチェンナイの日本領事館と協力して活発に行っているようですが、可能であれば、チェンナイと同様なセンターをバンガロールやハイドラバードにつくるといいですね。

それから、アジアの若い人は日本のポップカルチャーに興味を持ち、それが動機で日本に来て日本語の勉強をする人も多いとよく聞きますが、インドの若者は他のアジアの若者と違い、日本の新しい文化にはあまり関心を持っていません。インド人は日本のポップカルチャーを知らない。日本の漫画も無いと思います。インドでも子供の文化と大人の文化

はギャップがあります。私自身もあまり興味がないので調査したわけではないのですが、ゲームもまだそれほど盛んではないと思います。インド政府が海外の文化の導入を制限しているというよりは、日本の文化の入り方が少ないのだと思います。アメリカの文化はだいぶ入って受け入れられて広がっていますし、最近では韓国のももたくさん入ってきていますから。



チェンナイ中央駅

これまでは、日本研究や日本語の勉強をしても仕事がなかったもので、本当に限られた研究者が細々と研究を続けてきました。でも、今はインドと日本の関係も良好になってきているので、日本研究者の活動範囲も広がってくると思います。今後の日印関係を考えるとインドにおける日本研究を発展させる必要性が高まっていると思います。それには、益々人の交流が重要になってくると思います。ぜひ、その機会を広げていただけるとありがたいです。そして、近い将来インドにおける日本研究と日本語教育が大学でも主要な学科となって行って欲しいと願っています。

《印日関係》

印日関係のことについては両国民はあまり知りませんね。戦後の両国の関係をざっとお話ししますと、戦後のアメリカ、ソ連の冷戦は、両陣営に分かれていたインドと日本の関係にも影響して距離が置かれていました。しかし、1990年の冷戦終結と同時期にインドが外貨危機に陥り（1990年に始まった第1次湾

岸戦争で、それまでのインドから中東への出稼ぎ労働者が大量に帰国し、外貨送金が減少したこと、石油価格が暴騰したこと等に起因しています）、政府は1991年に経済改革に踏み切り、計画経済から市場型経済へ大転換し、また、外交面においてはソ連から米国へシフトし、更にルック・イースト政策を打ち立て、アジア諸国との関係促進に転換しました。その時期、インドのM.シン財務大臣（後に首相）が日本を訪問し財政支援の協力を得て、国際通貨基金（IMF）が支援し状況を打開できたことから日印の関係が動き出しました。しかし、1998年にインドで政権交代が起きると、地下核実験が2回も行われ、それに対抗してパキスタンが地下核実験を行ったため、両国がともに核の同等な所有国であることが判明し、相互抑止力が働くようになりました。当然国際社会の抗議を浴び、日本からは新規のODAを停止されました。しかし、この核実験後インドはすぐに各国との関係修復に動いたため、中国への牽制もありアメリカが米印関係の強化に乗り出し、2000年3月にクリン



バンガロール発展の象徴・UB シティ（複合商業施設）

トン大統領が訪印、日本もそれに続き、森喜朗首相の訪印が 2000 年 8 月に実現してます。

当時、すでに南インドのバンガロールは、インドのシリコンバレーともいわれ IT 産業の振興で知られていましたから、森首相はバンガロールに関心を寄せ、バンガロールを訪問し大歓迎を受け、大きな期待を寄せられました。そして、ニューデリーに移動し、「日印グローバル・パートナーシップ」を宣言し、再び新しい印日関係の幕が切られ、これを契機に、2001 年にバジパイ首相が訪日、2005 年には小泉純一郎首相が訪印し、「アジア新時代における日印パートナーシップ：日印グローバル・パートナーシップの戦略的方向性」のもと 8 項目にわたるより具体的な取組み事項が上げられました。ここには、政治、経済協力、防衛・安全保障、科学、文化・学術面での構想及び人と人との交流強化も謳われています。そして、2006 年に訪日したシン首相と安倍晋三首相との間で、「日印戦略的グローバル・パートナーシップに向けての宣言」が採択され、毎年交互に首相は相手国を訪問す

ることが決定され今も続いています。また、2007 年に安倍首相の訪印の際には、経団連会長をはじめ約 200 名の経営者が同行していて、その時も、「今後 5 年にわたり、インドから毎年 500 人の若者を日本へお迎えすることといたしました。日本語を勉強している人、教えてくれている人が、そのうちの 100 人を占めるでしょう。」とインドの国会で演説をしています。これも実現を見ずにいます。確かに各界の上層部の交流は定期的に行わ

れて、色々な取組みは進んできていますが、大変大きな問題として私は、目まぐるしく変わる日本の首相のことに言及せざるを得ません。私は、日本の政治、経済の専門家ですが、首相の名前を記憶するは大変です。

さて、これまでインド人の高学歴で、英語のできる人は外国に職を求めて出て行きましたが、今は、インド国内にもだいたい職場ができてきたので、誰もが外国に行くわけではありません。また、今は外国に行ってお金を作ったらインドに帰ってくる人が増えています。なぜなら今、ビジネス・チャンスはインドのほうが大きいからです。たくさんの人が戻って起業しています。現在、インドの IT 技術者の 60 パーセントはバンガロールに集まっています。そして、ほとんどの国際的な IT 企業がバンガロールにその事務所を置いています。そして、今やアメリカの大統領選にもインドの IT 企業が影響を及ぼしていると言われてます。なぜなら、大統領選の選挙ポスターの作成をインドで行い、膨大

な費用を節約する陣営も出ているからです。バンガロール、チェンナイ、ハイドラバードは南部のゴールデン・トライアングルと呼ばれ、インドの将来を託されています。チェンナイとバンガロールは約 400 キロの距離に位置し、普通電車だと 5 時間くらいかかりますが、今、日本の ODA で新幹線をつくる計画が進行中で、新幹線ができれば 2 時間もかかりません。それからもう一つ、日本の ODA の大きなプロジェクトとして、タミル・ナド州の沿岸部に工業地帯（タウンシップ）を造成する計画も進行中です。それが実現できたら、暑いチェンナイではなく気候のよいバンガロールに住んで、新幹線で会社に通うことが可能です。インフラが良くなれば日本の企業もたくさん来るとしています。「日本はインドを待っている。インドは日本を何年も待っています。」

まだインドは、半分は農村で、貧しい地域も多いですが、若い労働人口（15 歳から 45 歳）は世界で一番多い国ですから、日本の企業が来れば、日本の技術とインドの労働力で、うまくゆくと思っています。

それに、インド人と日本人のお互いのフィーリングは悪くないと思います。共に仏教国でもあり、戦争の直接的な利害関係も少ないですから。また、インドは、膨大な人口を抱えており当然国内市場が大きいので、これまでもインド国内であらゆるものを製造しています。小さいものから大きいものまで。小規模の製造業もたくさんあります。だから、日本からインドに来て生産活動を行うのは比較的容易だと思います。国内市場も大きいし、

日本の技術があれば輸出もできます。日本の技術、日本の資本、インドの土地と工場、そしてインド人労働者がそろえば、世界のプロダクションセンターになれると思います。それに、日本の製造業が来れば、市場として中近東、アフリカ、ヨーロッパも近くなるので可能性は大きくなると思います。インドは、資源もいろいろあります。石油とガスもあります。ですからインドは国と言うよりは、一つの世界なんです。インド人はそう思っています。またインドのたくさんの若い労働者は、比較的によく働きます。だから、日本のマネージャーでインド人のワーカーだったらとてもいい。日本のマネージャーは、ワーカーを監督・管理するのがうまいので、とてもいい労働習慣が作り出せると思っています。今、インドは国をオープンにして、世界から、日本から来るのを歓迎して待っています。

ご存知でしょうか？ インドは、北部はどこに行ってもヒンディー語が通じるのであまり英語は勉強しません。英語が話せない人もいます。しかし、南部では州ごとに言葉が異なるためお互いが話しをするときは英語を使います。ケララ州がマラヤラム語、カルナタカ州ではカルナタカ語（カンナカ語）、タミル・ナド州ではタミル語等、それぞれ州によりみな異なる言葉を使っていますから、英語は南部の人の共通語になっています。南部のインド人の英語は北部のインド人よりずっとスムーズです。だから南部へ外国から企業が来ても言葉の問題が少ないのです。

北部の大都市コルカタは人が多く混雑し



ています。デリーも同様大変混雑しています。コルカタはイギリス統治時代からインドの中心地で、第二次戦争が終わった後もイギリスとインドの関係が、教育も会社も変わらず多く残っています。インドが独立し、パキスタンがバングラデシュに分離した時に、ベンガル人がたくさん入ってきて、コルカタの人口が更に増えています。一方、デリーは首都ですから、隣接する州の中心でもあり、官庁、ビジネス、教育施設、公共施設等もたくさんあり、従って人も全国から集まっています。また、インドの西海岸に面するマハラシュトラ州（マラティー語が母語）の州都ムンバイ（旧ボンベイ）は、インド最大の人口を有する都市で、天然の良港に恵まれた港湾都市であり、金融センターとしてもにぎわっています。アフリカ、中近東、ヨーロッパにも開かれたローケーションに位置しています。

一方、農村地帯の多い南部は北部に比べ全

体的には貧しく、文化も北とは異なり、発展もゆっくり推移してきましたが、近年、南部はIT産業を中心に発展しつつあり北部と比べよりよい教育、よりよい仕事、よりよいビジネス、よりよいサラリーが実現できるところになってきています。

《日本の教育を見直してください》

フライング・ギースを知っていますか？「渡り鳥」、渡り鳥が隊列を組んで海を渡る。先頭を飛んでいるのが日本。後続は、台湾、シンガポール、香港、マレーシア、フィリピン、インドネシア……。まだハイテクを持った日本は先頭にいますけど、このポジションは絶えず変化しています。日本にはまだまだ優れた技術は今ももちろんたくさんあります。バイオテクノロジー、IT、ロボット工学、ナノテクノロジー。優れた技術力と資本、R&Dで、先頭を飛び続けることはできます。その時、古くなった技術は徐々に後続に移転してゆく。ただ、そうしたことも含めジャパナイゼーションは、東南アジア止まりになっている。範囲が限られています。やはりほかのアジアに広げて行くには国際化、グローバル化に参加しないとはいけません。そのために日本は、もっとオープンしなければなりません。グローバリゼーションは、共生、共存して行かなければ成り立ちません。国と国の関係、政府と政府の関係、企業と企業の関係、人と人の関係がさらに親密にならなければなりません。

これまで日本は強大な経済力を持ち、なんでも可能にしてきました。世界の文化、食文

化もスポーツもファッションもいろいろなものを日本に持ってきてここまで大きくなりました。しかしバブルが弾けた後日本の経済は立ち直らず、少子化の影響で人口も減り、長引く円高の影響、後発国との価格競争等で苦戦しています。外国に出て行かなければ続けてゆけない日本企業も増加しています。中小企業も外国に出て行くことを検討しています。そうすると日本の国内が空洞化し、20 年後、30 年後日本はどうなりますか？

仕事もなく、大変難しい状況になるのではと思っています。ですから、そうした状況も予測し、日本人は英語を子供の時からもっと勉強したらよいと思っています。そうすれば、どこにいても働けるし、海外の日本企業でも働けますから。

私は、日本は、20 年、30 年先を見て、日本の教育を変えなければならぬと思っています。多くの国が、そうしているように、教育を日本語だけでなく、英語にもっと力を入れるべきだと思います。そうしないと、国際化、国際化と言っている、本当にそうはならないでしょう。もし日本で、大学の先生もシンクタンクでも英語を使わなかったら、世界のどこからも日本の考え方は理解され

ないと思います。日本の政治についても、経済についても、極々限られた人にしか理解されない。日本語だけで書かれているものは、外国人には理解できない。英語で書かれていれば世界の多くの人が理解できます。日本研究や日本についての勉強をするにも、英語でやったらもっとたくさんの人が日本に興味を持つと思うし、国際化が進むと思います。日本語がわからなければ本当の日本のことは伝わらないという強い意見もあると思いますが、窓口は広くしておいて、強く興味を持った人が更に日本語を学び深めてゆけばよいのではないのでしょうか。あくまでも窓口は広くしたほうが、日本の理解者がより増えると思います。

世界はグローバル化が更に進み、国境の壁はますます低くなっていますから、お互いを理解し、尊重し、共存してゆくためには、言葉によるコミュニケーションはますます重要になってくると思います。だから、日本の教育方針を変え、日本語教育と同時に英語教育を行って下さい。30 年後、50 年後の日本はかなり変わると思います。

(以上はプラバカル先生インタビューを編集部がまとめたものです。文責編集部)

HS プラバカル (Dr. H.S. Prabhakar)

デリーのジャワハルラール・ネル大学国際研究所東アジア研究センター、日本研究准教授。1985 年からネル大学日本研究科で教鞭をとり今日に至る。専門は、日本の政治、経済、日本の経営、会社組織等、幅広い日本研究を行っている。1983 - 1984 年には国際交流基金の論文フェローシップを受け東京大学社会科学研究所に留学、アジア文化会館に居住。1994 年、ネル大学より Ph.D. を取得。その後、研究者として東京大学、早稲田大学等で日本経済、政治、政府、社会等について幅広い日本研究に取り組みながら多くの日本研究者の育成にあたる。PA ムルティ先生の教え子。

(1) PA ナラシマ・ムルティ (Dr. P.A. Narasimha Murty)

インド国際研究所 (Indian School of International Studies : ISIS) で1959年博士号を取得、インドの日本研究の草分け。ジャワハルラール・ネール大学開学後、ISISがネール大学に併合された後、大学の東アジア研究センター日本研究科 (The Center for East Asian Studies of the Japanese Studies) で教鞭を執り、多くの日本研究者を育成する。サヴィトリ先生*、プラバカル先生のPh.D.指導教官。1960年日本留学時、アジア文化会館に居住。



1960年当時

※ サヴィトリ・ヴィシシュワナタン (Dr. Savitri Vishwanathan)

1966 - 1968年の2年6月間、文部省留学生として来日、アジア文化会館に居住。東京外国語大学、東京大学などで、日本語、日本史、日本政治について研究を深め、1970年、ジャワハルラール・ネール大学よりPh.D.取得 (博士論文テーマ: 1945年～63年の日ソ関係)。帰国後、デリー大学で日本語、日本研究を教え、中国・日本研究科長として、多くの日本研究者を育成し、インドにおける日本研究、日本語教育の発展・普及に大きく貢献。日本では、客員教授として、京都大学、国際日本文化研究センターで研究に従事。島崎藤村『破戒』のヒンディー語及びタミル語翻訳のほか、日本の文化や政治に関する論文、記事を多数発表。PA ムルティ先生の教え子。



(2) トヨタ工業技術学校: TOYOTA TECHNICAL TRAINING INSTITUTE (TTTI)、カルナタカ州バンガロール市のトヨタのインド現地法人であるトヨタ・キルロスカ・モーター (TKM; Toyota Kirloskar Motor Private Limited) の敷地内に、2007年8月開校。優秀な技能者の育成を通じて、インド自動車産業の発展にも貢献する考えで、能力はあるが、経済的理由等で高等学校への進学が難しい中学校卒業生を対象に、「モノづくり」の専門技術を習得することを目的として、2007年に「トヨタ工業技術学校」を海外で初めて設立した。全寮制、3年間、工業科目を履修すると共に、塗装、溶接、自動車組立て、メカトロニクスの4つの専門コースに分かれ技能を修得する他、TKMでの技能実習も行う。入学金や授業料についてはTKMが全額補助。(参考: トヨタホームページ)

(3) インド・チェンナイ同窓会日本語学校 (Japanese Language School ABK-AOTS of Dosokai Tamil Nadu Centre) の最近の日本語学習者の推移

1973年、8名の学生からスタート。そして、今は約800名の学生がさまざまなレベルの日本語を勉強するチェンナイを代表する日本語学校。下表は、2005年～2009年のチェンナイ同窓会日本語学校日本語受講生数。(チェンナイ同窓会ホームページより)

LEVEL	YEAR (2005)	YEAR (2006)	YEAR (2007)	YEAR (2008)	YEAR (2009)
Level- IV	235	338	355	405	520
Level- III	95	99	104	138	84
Level- II	53	46	42	55	52
Basic Conversation	125	72	81	121	145
Advanced Conversation	25	-	-	15	25
TOTAL	533	555	582	719	801

Information ①**《ジャワハルラール・ネルーと戦後の印日関係概観》**

ジャワハルラール・ネルーはインド独立運動の指導者で、インド国民会議の議長。第二次世界大戦後、インドは独立の方向へと向かうが、ムハンマド・アリー・ジンナー率いる全インド・ムスリム連盟とヒンドゥー教徒が主体のネルーら国民会議派の対立が激化した結果、1947年8月15日にネルーがヒンドゥー教徒多数派地域の独立を宣言し、インドとパキスタンが分離独立。ネルーは独立インドの初代首相に就任。首相となったネルーは、国家が経済を主導する計画経済を推進した。また、企業の私有化は認めるが、厳しい規制を行い、公共部門が基幹産業を管理する混合経済体制を築き、また、国内産業を保護し、輸入品から国産品への代替を推進することで工業化を目指す輸入代替工業化政策おこなった。国際的には「非同盟・中立」の外交を推進、1954年、中華人民共和国の周恩来と会談、領土主権の尊重、相互不可侵、内政不干渉、平等互惠、平和共存の5つからなる「平和五原則」を掲げた。翌1955年には第三世界の中心的存在として、周恩来、インドネシア大統領のスカルノ、エジプト大統領のナセルと共にアジア・アフリカ会議（バンドン会議）を開催した。この会議では反帝国主義・反植民地主義を謳い、前述の平和五原則を拡充した「平和十原則」が定められた。内政的には、民主主義体制を堅持し、ネルー率いるインド国民会議派はガンディー及びネルー自身のカリスマ性とあいまって政治的にも左派から右派までの包括政党として広い支持基盤を持ち、ネルーが死去するまで政権交代は一度もおこっていない。しかし晩年、友好的な関係を築こうとした中華人民共和国とは、チベット亡命政府をインドが抱えていることや国境線などをめぐり対立を深め、1962年中印国境紛争が勃発する。また、計画経済政策により産業、農業面での生産性は上昇したものの、人口増加に追いつかず、国民の大多数は貧しいままで、内政にも問題が生じていた。そして1964年5月27日に首相在任途中で心臓発作により死去する。

ネルー首相は、敗戦国日本に対し好意的であった。1952年4月、日本と平和条約を締結し、この平和条約の下、戦後賠償も放棄し、インドにあった日本の財産、日本にあったインドの財産は相互に返還されている。また、戦後復興に重要な役割を果たした日本の鉄鋼業に必要な鉄鉱石を日本に優先的に提供、日本はその返礼としてODAの第1号の借款をインドに提供している。しかし、冷戦を挟んだ38年の間は陣営を異にした両国の関係は目立った動きもなく過ぎていく。1990年、冷戦終了後インドは外貨危機に陥り、市場経済化と同時に経済開放に踏み切り、また政治的にはルック・イースト政策によりアジアへの関心が高まり、印日関係も動き出すが、1998年のインドの核実験のため冷却化。2000年森喜朗首相の訪印時、「グローバル・パートナーシップ」宣言がうたわれ、その後、2006年から両国首脳定期交流が始まり各種懸案事項が具体的に動き出している。なお、経済関係では、1982年にスズキ自動車がインドに進出し合弁を立ち上げ話題になったただけだが、この10年、日系企業の進出も徐々に増え、2011年には約800社に上る。2012年は日本とインドが国交を樹立して60年目にあたる。（参考：Wikipedia 他）

Information ②**《インドの教育制度》**

原則 (5 + 3) + (2 + 2) + 3 制度 (州によっても多少異なる)

初等学校 (primary school) 1 - 5 年生 (5 年間) 義務教育段階

上級初等学校 (upper primary school) 6 - 8 年生 (3 年間) 義務教育段階

中等学校 (junior secondary school) 9 - 10 年生 (2 年間) 統一修了試験

上級中等学校 (senior secondary school) 11 - 12 年生 (2 年間) 統一修了試験

高等教育機関 (college と university)

College 3 年間 日本の学部レベルの教育中心

University 日本の大学院レベルの教育及び学術研究

Master's Course 2 年間 日本の大学学部 4 年生に相当

M.Phil Course (エムフィル、博士課程準備コース) 2 年間 日本の大学院修士課程に相当し、論文の提出義務がある

Doctoral Course 3 ~ 5 年間 日本の博士課程に相当

*教育行政:中央管轄の教育機関は人的資源開発省が、その他の教育機関は各州の教育省の管轄下にある。
(参考:国際交流基金ホームページ)

Information ③

《インド政府奨学金 (日本人留学生対象)》

インド政府は毎年、インド国内の公認教育機関において様々な学問を学びたいと考えている優秀な日本人学生を対象に奨学金制度を実施しています。奨学金の対象となるのは学術研究コースの他、通常の学問とは見なされにくい宗教や古典ダンスや工芸のコースもこの制度の対象となります。

インドへの留学を希望する日本人学生対象の奨学金プログラムは下記の通りです。

- Scholarships under the Indo-Japan Cultural Exchange Programme (CEP)
- Scholarship under the General Cultural Scholarship Scheme (GCSS)
- Ayush Scholarship Scheme (アーユルヴェェダ、ユナニ、シッダ、ヨガやホメオパシー講座受講希望者対象)
- Scholarship to study Hindi at the Kendriya Hindi Sansthan, Agra

留学先は、ウッタル・プラデッシュ州アグラのケーンドリア・ヒンディー中央学院に限定されます。

CEP、GCSS と Ayush 奨学金では授業料、宿泊費、教材費を提供しますが、日本～インド間の旅費は対象外です。奨学生選考は通常、毎年1月に行われます。

ヒンディー語研究奨学金は授業料、宿泊費、教材費に加え、日本～インド間の旅費を補います。選考書類は5月までに在日インド大使館にご送付ください。

(駐日インド大使館ホームページより)

参考資料

- (1) 国際交流基金ホームページ; 日本語教育
- (2) 国交 60 周年: 日印関係を開眼し展望する—歴史的絆から戦略的グローバル・パートナーシップへ
Japan India Relationship: the Past, the Present and the Future—From Historical Ties to Strategic and Global Partnership 公益財団法人印日協会理事長平林博
- (3) インドにおける日本研究の現状—問題と将来性— プラット・アブラハム・ジョージ
- (4) 東京大学ホームページ
- (5) JASSO 留学生受入れ概況

初めての日本・初めての留学

TNI 学生 日本短期留学を語る



箱根旅行にて

この春、タイ・バンコクの泰日工業大学 (TNI)※ からおよそ 40 名の学生が来日し、ABK 日本語コースでの日本語研修、日本文化体験などのプログラムを通し、およそ 2 か月にわたって日本を体験した。限られた時間の中ではあるが、初めての日本で様々な体験をした彼らは日本に対してどのような感想を持ったのだろうか。日本語プログラムが修了し、翌日に帰国日が迫った日の朝、参加者の中から 11 名に集まってもらい、今回の日本体験について、そして留学先としての日本の魅力について、語ってもらった。

※ 泰日工業大学 (TNI) は、日本型ものづくりを教育することを目的に、2007 年に開学した大学で、母体となったのは、元日本留学生たちが 1974 年に設立した泰日経済技術振興協会 (英語略称: TPA) だ。TPA は設立当初からタイ国の人材育成、産業技術情報の普及・促進、日・タイ友好のため様々な事業を展開しており、大学はこの TPA の 35 年以上に亘る実績・経験を生かした「日本型ものづくり大学」を目指している。

(編集部) まずはじめに、留学前にはどんなイメージを持って日本に来ましたか。

(スピチャャー) 日本語が一定のレベルまで上達することを期待したのと、日本人の生活スタイルや文化などを体験できると思っていました。

(ピンティップ) 私は日本の文化や生活などを実際に見られるということと、学校では日本人やタイ人以外の友達ができるといいなあと思ってました。

(ナティー) 僕は東京をいろいろ見たかったです。次回自分で家族を連れてきて案内で



スビチャヤーさん

ピンティップさん



ナティーさん

きますから。

(チャナティップ) まず一番大切だと思ったのは日本語の勉強です。来日前はそれが一番で後のことはあまり考えていませんでしたが、思った以上にたくさんの経験ができました。両親と離れて、一人で生活するという体験も新鮮でした。

(スパシット) ずっとタイで日本語を勉強していましたから、場所を変えてみようと思ってここに来ました。それに日本での生活スタイルを体験したかった。日本は気候が良くて空気もいいですね。

(カニン) 僕は今まで勉強した日本語を日本で使ってみたかったのと、日本での遊びも体験したかった。

(スパウィット) 東京と、その他の地方にも行ってみたいと思っていました。それに日本の文化も体験してみたかった。

(編集部) 日本語の授業はどうでしたか？

(ピンティップ) 授業は楽しかったのですが、4時間連続でやるので、4時間目は集中力が続きませんでした。勉強のことだけ考えればお昼休みを挟んでまた午後続けるのが良

いと思うのですが、でもこのスケジュールのおかげで、午後はしっかり遊びに行けたから、良かったのかもしれない。

(ナティー) 授業のレベルが自分に合っていました。漢字も最初の50文字は面白かったです。それ以降はがんばったけど難しい(笑)。

(チャナティップ) 日本に来て勉強するのは、自分にとっては難しではと思ってましたが、自分に合うレベルで勉強ができました。

(チャトポーン) 日本語は難しかったけど、書くのも読むのもタイで学んでいた時より良くなりました。

(スパシット) 勉強は難しかったです。真面目にやらないとダメですね。

(カニン) 日本語はタイで学ぶより、やはり良かったです。実際にたくさんの日本人と話すことが出来たのも大きかったです。

(スパウィット) 漢字の勉強は楽しく300文字くらい覚えました。

(編集部) 日本語は上達したと感じますか？

(スパシット) 日本語が上手になったかどうかはわかりません。日本人の友人の車で富士山に行ったのですが、彼がトイレに行ってい



チャナティップさん



チャットウボンさん



スパシットさん

る間に運転席に座っていたら警察官が来て、何か聞かれたんですけど、何を言っているのかまったくわかりませんでした（笑）。

（ガンジャンナー） 日本語の文法は易しく感じて大好きでしたが、漢字が難しかったですね。

（サリンティップ） 勉強は最初はとても大変でしたが、やり続けていくうちに楽しくなりました。ABKで学び始めた時は文法はそんなに難しくないと思っていましたが、同じクラスの友達は単語をたくさん知っていて漢字がとても上手なので、その分がんばらなければなりません。でも宿題も楽しかったです。

（編集部） ABKで日本語を勉強している人はこれから日本の大学に行く人が多いですから、タイで勉強する人よりはたくさんの単語を知っていると思います。

（サリンティップ） 私は漢字のことはいつも中国人の友達に聞いてました。

（ワラリー） でもサリンティップさんは、こちらに来てからの漢字テストでいつも満点でした。

（編集部） 努力家ですね。

（ワラリー） 私は漢字が下手で、一度、テストがあることを忘れていて、前日勉強をしないで受けたのですが、全然ダメということはなく、少しだけできました。先生は「昨日勉強しましたか？」とコメントを書いてくれました（笑）

（編集部） では学校の印象はどうでしたか？

（サリンティップ） 日本に来る前は、タイ人だけで勉強すると思っていたのですが、私は一般のクラスに入ったので、いろいろな外国人の友達ができました。とても嬉しかったです。

（ワラリー） クラスにはマレーシア人、中国人が多いですから、いろいろな言葉の意味を覚えました。ある日友達と道を歩いていたら、「あなたは中国人ですか？」と中国語で聞かれたのですが、その時中国語で「違います」と答えられたんです（笑）。クラスの友達や寮の友達と一緒に時間を過ごせて、お互いの文化のことも話して、日本だけではなく、いろいろな国のことがわかるようになりました。私はタイでN3(日本語能力試験3級)の試験に合格したのですが、N2は2回受け

スパウジットさん



カニンさん



ガンジャンナーさん

でもだめでした。もう一度7月にN2の試験を受けますが、日本で勉強できたおかげで、自信ができました。

(編集部) いろいろと出掛けた中で印象に残っているところはどこですか？

(スピチャヤー) 旅行は特に箱根が黒玉子を食べたり船に乗ったりして楽しかったです。

(チャトポーン) 僕も箱根です。地獄谷の上まで黒卵が食べたくて必死に上がって行ったら売り切れで、代わりにワサビアイスを食べました。少し辛くて美味しかった。

(ナティー) 自然が好きなので、駒込の公園(六義園)を歩くのが気持ちよかったです。

(チャナティップ) 池袋のゲームセンターが良かったです(笑)。UFO キャッチャーで人形をたくさんとりました。それから六義園は花がたくさん咲いていて、きれいでした。タイの庭園にはあんな奇麗なところはありません。

(カニン) 僕はディズニーシーに遊びに行きましたが、楽しかった。ああいう所は大好きです。

(スパウジット) 僕もディズニーシーに行

きました。雨が降っていたので人が少なく、待ち時間がなくて良かったです。

(ガンジャンナー) 私は富士急ハイランドが楽しかったです。静岡の白糸の滝も綺麗で良かったです。

(チャトポーン) 日本はタイと違って天候が良いのでよく歩いたのですが、健康に良かったと思います。最初は歩くのは面倒だったのですが、今はちょっと歩くとすっきり気持ちよくなります。

(編集部) 寮生活はいかがでしたか？

(スピチャヤー) 寮の部屋は良かったのですが、廊下など部屋の外がうるさかったですね。時々3時、4時でも笑い声がしますから。それから2階に住んでいる友人が共有の冷蔵庫に入れていた“鮭”が、いつの間にかなくなったことも問題です！

(ワラリー) 私の寮は富士前寮(女子寮)ですが、とても良かったです。友達の寮にも行って見ましたが、一番好きなのは富士前寮です。部屋も広くてきれいで、各階に台所もありますし、それに管理人のママがなんでも親身に対応してくれました。それ



サリンティップさん



ワラリーさん

に寮では友達がたくさんできたのも良かった。夜は同じフロアに住んでいる10人くらいで料理をつくり、誰かの部屋に集まって各国料理を食べながらお喋りをするのがとても楽しかった。インドネシア、マレーシア、香港、台湾などの人たちですが、食事の後に、それぞれの国の大学の授業のこととか、生活のこととか、ときどき男性の性格のことなども話して面白かった(笑)

(編集部) みんなと話す時は日本語で話しましたか？

(ワラリー) みんなと話す時の言葉は日本語ですが、時々英語を使うこともありました。ですから日本に来て、英語がどれほど大切かということもわかってきました。日本に来たばかりで日本語がまったく出来ない人や日本語と母国語しかできない人もいますから、そういう2人が話す時は、私が英語を使って通訳をしました。

(編集部) タイへ帰ってこの経験を生かして何をしたいですか？

(一同) 12月に日本語能力試験の4級(N4)を受けます。

(ワラリー) 私はN2の試験に受かったら、漫画の翻訳の仕事をしてみたい。そして中国語も勉強したいです。

(サリンティップ) 私は帰国したら日本語だけでなく、英語と中国語の勉強をがんばりたいと思います。

(スピチャャー) 私は日本語をもっと勉強したいという

意欲が高まりました。

(編集部) 将来日本に留学したいと思った人はいますか？

(ワラリー) 奨学金などをもらえる機会があれば留学したいです。

(スパシット) 留学するとしたら日本語の勉強をしたいです。

(ビンティップ) 私はMBAを勉強したい。

(ワラリー) 私は専門学校で漫画の勉強をしたいです。文科省の奨学金には大学と専門学校と二つの種類の奨学金があるのですが、私が受けた1年前の試験で合格したのは一人だけで、その人は私の友達です。

(チャトボーン) 私はエンジニアの勉強をして企業で研修したい。

(ナティー) とりあえず日本語をやって、上達してからその先を考えます。

(編集部) 今回の短期留学は満足でしたか？

(一同) 満足です。

(編集部) 日本からエネルギーを持って帰ってかんばってください。そして将来、1人でも2人でも日本で勉強する人が出たら嬉しいです。



留学生の就活-Vol.Ⅶ

< CG 制作会社勤務 >

フレディ クルニアさん Mr. Freddy KURNIA インドネシア

2007年9月来日、2007年10月～2009年3月アジア学生文化協会日本語コース、
2009年4月～2011年3月日本電子専門学校、2011年4月就職

日本のゲーム産業といえば、アニメ等とともにクールジャパンを代表する産業の一つだろう。今もなおシリーズが続くスーパーマリオブラザーズやファイナルファンタジーなどは1作目のリリースから25年以上が経過しており、これらのゲームとともに成長し大人になった若者が今や世界中に溢れている。彼らの中には、憧れのゲームを生んだ日本のゲーム業界で働きたいと思う者も少なからずいるだろう。インドネシアから来たフレディさんもそんな夢を抱いて日本に留学した一人だ。いま、夢を適えて日本のゲーム業界に就職したフレディさんに、就活のことや仕事のこと、将来の目標などについてうかがった。

——— まず、留学先を日本にした理由を教えてくださいませんか。

ゲームのクリエイターになりたくて留学を考えた時、留学先を日本にするかアメリカにするかで、かなり悩みました。でも大好きな「ファイナルファンタジー」をはじめ自分が子供の頃から遊んできたゲームは日本のものが多かったんです。僕はRPG(ロールプレイングゲーム)が好きなのですが、日本の作品はストーリーに奥行きがあってアメリカなどのものより面白い。それに日



本のアニメも好きだったので、日本に行った方がいろいろと勉強できそうだったんです。

——— インドネシアで大学を卒業してから日本に留学されたんですね。

自分としては、高校を卒業してすぐに留学したかったのですが、両親の希望もあって、留学は国内の大学を卒業してからということになりました。大学では経理を専攻

しましたが、両親は在学中に留学のことなど忘れて卒業後はインドネシアで就職してくれればいいと思っていたかもしれません。でも大学時代もゲームが好きで、留学したいという気持ちは変わりませんでした。

——— **日本電子専門学校はどのようなポイントから選びましたか。**

就職率も良かったので、友達からもこの学校がいいのではと勧められました。それに同じ寮に住んでいるインドネシア人の友人がこの学校に通っていて、良い学校だからと誘ってくれたことや、いろいろと学校の話聞いたことが参考になりました。

——— **学校ではどのようなことを学びましたか。**

1年生の時にゲーム制作に関わる全体的な流れを学び、次にCG分野のモデリングやアニメーション、エフェクトなどの基本作業を学びます。そして2年生になる時にその中から専攻を選び、専門的に学んでいきます。僕はモデリングという、平面的な絵(2D)から立体的な絵(3D)を作る作業が一番得意だと思ったので、それを専攻にしました。

——— **学校の勉強は期待通りのものでしたか。**

個人的には思った以上にいろいろなことを学べました。ただ、学校が教えてくれるのは制作に必要な基礎の事項で、そのあとは自分でどんどん練習しないと意味がありません。そしてわからないことは、どんどん先生に聞いて教えてもらう。練習をしないとわからないことも出てきませんから、何も身に付かないということです。

——— **デザインの勉強は入学前にも自分**

でしていたのでしょうか。

まったくやっていませんでした(笑)。デッサンも含めて、始めたのは専門学校に入ってからです。

——— **就活はいつからはじめましたか。**

2年生の6月からです。1年生の頃から始める人も1人、2人いましたが、そういう人は一度業界での社会人経験があって、初めから目標がはっきりしている人です。普通の学生は1年生のうちには自分の適性や能力がつかめていませんから、1年生からの就活というのは難しいと思います。

——— **企業の情報はどのようにして集めましたか。**

学校からのほか、自分でもインターネットなどを使って、いろいろなゲーム会社の情報を調べました。また、日本電子専門学校の先輩には業界で働いている人が多いのですが、そういった人が学校に来てくれて説明会をしてくれますから、そこで仕事や環境のことなどいろいろ話を聞かせてもらい参考にしました。

——— **合計何社に応募しましたか。**

10社くらいですね。今の会社は最後に応募した3社の中の一つで、最終的に内定が出たのは3月でした。もしこの会社に着いたら、日本での就職は諦めて、友人が業界で働いているカナダに行こうと考えていました。

——— **どのような会社を選びましたか。**

言葉の問題などから留学生をほとんど採らない会社もありますから、そういった所にはあまり応募せずに、留学生も採用することがはっきりしている会社に絞って応募をしました。



フレディさんの作品（写真ではありません）

——— **会社が留学生を採用する理由は何でしょう。**

例えば韓国人を多く採用している会社は、単に優秀な人を求めたら韓国人が多くなった、ということのようです。この業界は実力主義ですから、留学生でも能力の高い人にはチャンスはあります。

——— **会社選びで気をつけたことはありますか。**

僕は名の知れた大手はもちろん、中小の会社も受けましたが、どこを受けるにしても会社の歴史をきちんと調べて、経営がしっかりした安定しているところを選ぶようにしました。こういう業界は、小さい会社も多いですから、仕事が減るとすぐに潰れてしまうこともあります。ですから会社案内などで事前に調べるのはもちろんですが、疑問に思ったことは面接の時に聞くべきだと思います。会社ことをきちんと知りたいという姿勢は、面接官にも好印象を与えると思います。

——— **自己アピールについてはどうでしょう。**

自分は何ができるかをしっかりアピール

して、将来どんなことをしたいかということも伝えるべきだと思います。「与えられたことは何でもやります」というよりは、自分は会社で何をやりたいのかということ伝えてほうが、会社も将来のビジョンと照らし合わせて採用しやすいのではないのでしょうか。また、僕らの業界の場合は会

社の作品を事前にしっかり見ておき、面接の時にその作品について、自分の感想を話すこともプラスになると思います。

アピールと言え、今の会社の面接の時、その場で2枚くらい絵を描いてみて、と言われたのですが、僕は自信がなくて1枚しか描けなかったんです。面接官からは「もうちょっと自信を持って」と言われましたが、本当にもっと自信を持ってアピールするべきだったと反省しました。結果は合格だったのですが（笑）。

——— **会社のことを教えていただけますか。**

僕の会社は主にゲームに使われるグラフィックの制作会社で、もともとは2Dが専門なのですが、クライアントの要請によって徐々に3Dも受けるようになっていきます。また、仕事は会社内だけではなくて、専門技術を持ったスタッフを他社に出向させてプロジェクトに参加させています。僕も今は出向先の会社でプロジェクトに参加しています。以前のゲーム業界は一つの会社が一つの作品をまるまる制作することが多かったのですが、最近はたくさんの制作会

社に仕事を分散し、一つの作品を完成させるという形をとっています。そのほうが、制作が早く、コストも削減できるのだと思います。

————— 夢に見ていた仕事に就いてみていかがですか。

仕事は予想と大きく違うことはなく、楽しくやっていますが、やはり責任が重いですね。それと、上司のチェックの厳しさも予想以上でした。自分ではパーフェクトだと思っても、必ず直しが入りますから、まだまだ勉強が足りないなと思っています。

————— 今参加しているプロジェクトはどのようなものですか。

今はパチンコ台用のムービーを作っています。今出向している会社はゲーム映像のほかにパチンコ台の映像もやっていて、これまで3本のプロジェクトを終えましたが、今まで僕が作ったものはそちらで使われています。僕はもともとゲームそのものよりも、ゲームのオープニングに流れる映像を作りたいかったので、今の仕事はその希望に合っていて、とても気に入っています。ただ、ゲームソフトと違って、誰もが個人で購入できるものではないので、そこはちょっと残念ですが、会社で完成した映像を見ることが出来るので、満足していますし、やりがいも感じています。

————— 職場の雰囲気はどうですか？

悪くありません。大きな会社の場合はいろいろあるようですが、僕の会社は人間関係も悪くないですね。特に今出向中の会社は設備も良いですし仕事をする環境面も恵まれていると思います。実は今の会社への出向は当初半年の予定だったのですが、社

長に気に入ってもらえたのか、もう1年半いるんです。

————— 日本語はどのような場面で必要ですか。

会議の時に自分の作業について、実際の絵を見せながら日本語で報告します。これは短くても内容がきちんと伝われば問題ありません。またメールも出しますが、送信先はチーム内だけですから、今のところ日本語で複雑なビジネス文章を作ることはありません。むしろ日本語の大切さを感じるのは、普段の同僚や上司とのコミュニケーションにおいてです。コミュニケーションをしっかりとって、信頼関係ができていれば、書類の内容がよくわからない時なども、気軽にみんなに相談できますから。

————— 生活面、待遇面などについては満足していますか。

東京での生活はいいのですが、やはり仕事がきついですね。朝は9時くらいに家を出て、退社するのは早くて21時。普段は22時、23時が当たり前という感じです。それでも僕の場合はまだましで、会社にしょっちゅう泊まっている人も珍しくありません。それに固定残業ですから、給与は時間の割にはちょっと足りないなあという感じはします。

————— 一つのプロジェクトが終わると、しばらくゆっくりできるのでしょうか。

どんどん次の作品が控えていますから、一つが終わると同時に次の仕事に取り掛かるという感じです。ですからあまりのんびりしている時間はないんです。

————— 最近は日本のゲームのステイタスが、落ちてきているという話を聞きますが、

業界にいてどう感じますか。

それは本当だと思います。世界的にはアメリカのゲームに負けている状態です。今、日本の企業でグローバルに勝っているところはないのではないのでしょうか。以前はアイディアとか、クオリティーで日本が先行していたのですが、今は逆転され、さらに差をつけられてしまったという感じがします。

———— **制作現場にも原因があるのでしょうか。**

同じ高校の同級生で、アメリカの大学に進学し、そのまま現地のゲーム業界に就職した友人がいますが、向こうでは残業はあってもだいたい18時とか19時には帰宅して、その後はみな自分の能力を伸ばすための勉強をするそうです。日本のように、会社で与えられた仕事を次々とこなさなければならぬ状況になると、いつの間にか好きだったはずの仕事が楽しくなくなる。結果として良い作品が生まれる環境が整わないのではないのでしょうか。日本の業界の制作現場は予算が厳しくて、短い製作時間の中で作品を作らなければなりませんから、結果として現場の人が厳しくなり、残業が多くなるという悪循環なんだと思います。

ですから、CGデザインなどのスタッフは、みな最初は正社員ですが、正社員になると、どうしても拘束時間が長くなりますから、責任も重くないフリーになる人が多いそうです。ただ、それが業界にとっていいことなのかはわかりません。

———— **フレディさん自身は仕事を通して成長していると感じますか。**

今の会社では僕が一番若手ですが、周りにベテランで上手な人が多いというのは自

分には良い環境です。自分から勉強しないと負ける、他の人に負けると仕事がなくなる、というハングリー精神で今はばりばりやっています。また技術的、人間的にもお手本になる上司が身近にいますから、自分自身いろいろな意味で成長していると感じています。

———— **インドネシア人のアニメやゲームが好きな学生の留学先はアメリカですか。**

やはりアメリカに行く、というのが一般的です。僕もゲームクリエイターになりたいと話したら、みんなから「それならアメリカに行けばいいじゃないか」と言われました。日本のアニメはインドネシアでも人気はありますが、エンターテインメント分野を学ぶ留学と考えると、真っ先に思い浮かぶのはアメリカなんだと思います。

———— **ではアメリカではなく、日本に来てどうでしたか。**

これまで予定通りに来ていますし、日本に来て良かったと思っています。日本人が仕事に対して見せるがんばりの凄さ、責任感を持って働く姿勢は本当に素晴らしく勉強になります。インドネシアには、まだそういう人は少ないでしょうね。

———— **将来はどのように考えていますか。**

今は日本で一生懸命与えられた仕事をこなしながら技術を磨いて、自分の理想とする姿に近づいて行ければと思っています。またチャンスがあればハリウッドなど、日本とは異なる海外の現場で、現地のクリエイターの人たちと仕事をしてみたいとも思います。そして将来はインドネシアで自分のCGプロダクションを興すのが夢ですね。

———— **ご活躍を期待しています。**



※ 各情報の詳細は主催団体ホームページ等でご確認ください。奨学金情報は、日本留学情報データベースサイト = JPSS (<http://www.jpss.jp/ja/>) にて検索が行えます。

しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

■ 佐藤陽国際奨学財団 Asia 留学生奨学制度

対象：①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルジブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、文部科学省所轄の大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学生 ②他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していない者（学習奨励金、研究助成金などを受給している場合は事前に事務局に問い合わせること。貸与奨学金については応募可）

③在留資格「留学：college student」を有する者 ④国際理解と親善に関心を持ち、財団の交流会に必ず出席できる者 ⑤日本で就業している親がいない者 ⑥「博士」の学位を取得していない者 ⑦現在在籍している課程の在籍期間が奨学金受給開始時期から1年以上ある者 ⑧勉学・研究に支障のない日本語能力を有する者 ⑨当財団の奨学生を終了後、同窓生として交流活動に積極的に協力できる者

給付金額：＜学部生＞月額12万円、＜大学院生＞月額18万円（他に学会出席補助金制度あり）

給付期間：①2012年10月期生→2012年10月から2014年9月までの2年間、②2013年4月期生→2013年4月から2015年3月までの2年間（ただし、採用時の課程に在籍する期間を限度とする。）※支給開始は入学時期により2012年10月と2013年4月に分かります。必ず募集要項を確認してご応募ください。

採用人数：2012年10月期生 約3名、2013年4月期生 約8名

応募：在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から財団宛に郵送にて提出すること。

募集期間：9月5日（水）～9月11日（火）

※ただし、2012年10月入学新1年生に限り9月25日（火）まで受け付けます。

団体連絡先：〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-7-1 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団事務局 ☎03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

イベント情報

水かけまつり&ワールドフェスタ（さいたま新都心けやきひろば）

東南アジアの水かけ祭を都心型にアレンジ。さらに世界各国の屋台やマーケット、民族舞踊や音楽などを通じ、アジアを中心に世界各国の文化を紹介します。水かけは各日11時～13時。

日時：8月10日（金）～12日（日） 10:00～20:00（12日のみ18時）

場所：さいたま新都心けやきひろば（JR「さいたま新都心駅」徒歩2分、「北与野駅」徒歩5分）

<その他9月開催のアジア関連イベント>

- タイフェスティバル in しずおか（9月1日（土）、2日（日） 静岡市呉服町商店街 青葉シンボルロード）
- スリランカフェスティバル（9月8日（土）、9日（日） 代々木公園イベント広場）
- ベトナムフェスティバル2012（9月15日（土）、16日（日） 代々木公園イベント広場）
- 第6回タイフェア in 横浜（9月22日（土）23日（日） 横浜 赤レンガ倉庫前広場）
- ナマステ・インディア2012（9月22日（土）、23日（日） 代々木公園イベント広場）

MEMBERS

<ご入会とご寄付の報告>

2012年4月

特別会員

（1口）

染谷 公久 坂東市
来山 文泰 文京区

賛助会員

西谷 隆義 土浦市

正会員

（3口）

加倉井 弘行 豊島区

（2口）

林 均 横浜市

（1口）

稲垣 敏彦 湖西市
李 景珉 世田谷区

大野 大平
植田 泰史
松本 誠一
出澤 正徳
高道 俊彦
新宿日本語学校
庄司 龍平
横山 昌幸
菊地 絵里奈
奥山 義夫
岡本 妙子
高橋 作太郎
椋山女学園大学国際交流センター
名古屋市

北区
那珂市
文京区
鶴ヶ島市
富山市
新宿区
神戸市
千葉市
葛飾区
町田市
横浜市
静岡市
名古屋市

ご寄付

田中 美智子 市川市
増田 澄 文京区

2012年5月

正会員

（5口）
（財）日立国際奨学財団 千代田区

（2口）
清水 勇治／泰代 高崎市

（1口）
河合 秀高 横浜市
田原 晶子 鹿児島市
熊沢 敏一 松戸市
東京都太田記念館 杉並区
杉原 正勝／バーバラ 八王子市
外山 経子 八王子市
秦 幸吉 大田区
坂本 健 西東京市
堀 幸夫 杉並区
鈴木 八重子 志木市
岩尾 明 日田市
孟令樺／計宇生 渋谷区
赤星 裕 船橋市
木村 博／劉 彩品 川崎市

ご寄付

栗原 静子 気仙沼市



ABK同窓生募金 (2012年5月31日現在)



ご協力ありがとうございました。募金のご報告は『アジアの友』並びに同窓会ホームページ
< <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmeiroke.html> > で随時ご報告させていただきます。

- 目標額：5,000万円
- 募金額：41,068,381円
- 寄付者数：757件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC 順

<ブラジル> Nelson Yamakami

<日本> ABK 留学生友の会、赤星裕、平岡昭子、加倉井弘行、倉部絹代、大野大平、岡部洋一、高道俊彦、寺門克郎、山田健一、横山昌幸

<マレーシア> Alan Tan Yu Poo、Chan Kok Foo (陳国富)、Chong Teek Foh/Chow Soo Lin、Choong Yoon Seng、Chue Wai Kong (朱威金光)、Fong Wee Keat、Joan Wai Kim Foh、Hew Boon Thai、Kang Chin Yeh (江晋業)、Kong Kwee Song (江回松)、劉・有村開順、Lim Chin Ee、Lee Li Soon、Lim Soon Hang (林順衍)、Lim Suat San (林雪珊)、陸培春留日センター、Lwee Lew Chen (雷柳菁)、Lwee Yuen Chiang (雷远江)、Lwee Yuen Tung (雷远东)、Ng Mee Wah (吳劍華)、Ong Wei Bing、Sam Cha Peng (覃澤平)、Siew Kooi Kam (蕭鉅金)、Soo Kee Chee (蘇克智)、Tham Kok Who、YB Liang Teck Meng (梁德明)、Yew Kuen Ying (姚群英)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yong Hwee Yan、白石和也、水野伸明

以上、43件

<お礼とお知らせ>

皆様からご支援・ご協力を頂きまして、この4月末までに4,000万円を超える募金が集まり、目標まで今一息のところに来ています。改めて御礼申し上げます。

おかげさまで、6月19日に東京都へ日本語学校の学校法人並びに各種学校の申請を無事行うことができ、受理されました。只今、旧建物の一部を解体中で、都・区の建設許可が出次第、新校舎の建設に入ります。なお、新校舎の完成は2013年3月を予定しています。そして、2013年6月には、認可を頂く予定です。

2012年3月31日以前の寄付者(710件)

<バングラデシュ> A.K.M. Moazzem Hussain、橋本イスラム・ヌルール(在日)

<ブラジル> ALBERTO TACHIBANA、Alice Nakamori、フランシスコ ヒロノリ イシハラ、Hashiguchi Mariuza、Matsubayashi Marcia、ミズマ アイコ タチバナ、セキヤ タチバナ、Tomooka Tizuko、ヤマウチ アツシ、ヤマウチ カズコ

<カナダ> 張素華(香港)

<中国> 蔡堅平、陳洪真、Chen Xian(陳獻)、戴志堅/陳艷萍(2、在日)、高榮、可軍(広中軍二、在日)、賈輔忠、賈蕙萱、金秋、金東翰、郭南燕(在日)、李春利(在日)、Li Chen Xi 李晨曦、李惠春、劉明華、劉映春、劉越(在日)、呂新一(在日)、孟令樺・計宇生(在日)、Meng Xiao Xiao、宮下偉路(趙偉路、在米)、倪玉、Ou Yang Fei 歐陽菲(在日)、朴順玉、全浩、沙蓮香、尚捷、孫前進、王巍、Wang Wen 王穩、魏慶鼎、嚴浩、楊一帆、張新、張新旺、張航、張勇、Zhou Xiang

<ドイツ> Heng Fu Chong(マラヤ)

<香港> Chan Sui Ngan(陳小雁)、Choi Man Wa(蔡敏華)、梁志瞬、Yeung King Hong(楊經航)/蔡金燕(マレーシア)

<インド> AAAWI(AOTS Alumni Association of Western India)、A. P. Wagle、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、Abul Sharah、Ashok Saraf、雅留宮久磨(在日)/澄子(日本)、M. Ramamurthy

<インドネシア> Budhi Setiawan Kohar

<イラク> Mudhafar Al. Jabiri

<カンボジア> 忍足林基(在日)/美恵子(日本)

<日本> 安藤哲生、新井敬二・由利、新井重光、荒川雄彦、アジアの新しい風、Ch atty B.Q.(ワタナベ)、近山武子(3)、藤原一枝、深澤のぞみ、福譲二、福本一、古川恵世、布施知子、濱田洋子、秦幸吉、橋口真人、林均、樋川好美、平井まりこ、平峯克、平岡明子、平田熙、帆刈礼子、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、細川哲士、穂積亮次、井出遊、池田俊二、池森亮介、池野朋彦・晶子、池添尚行、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、犬塚雄大、伊佐玲子(2)、石原廣、石原誉慎、石井信彦、石川毅・優子、伊藤郁子、伊藤順(3)、伊藤源之(2)、岩井秀明、岩尾明、岩佐佳英、岩崎幸子、甲斐等、加倉井弘行、兼重節、兼重道雄、兼重智雄、勝部純基、香月恵美子(2)、河合秀高、川上剛(在スイス)、川崎依邦(OCE)、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰(2)、小林浩、小林泰子、小宮信介、金野隆光(3)、久保哲也、久保木裕一郎、工藤正司、工藤幹夫(4)、熊沢敏一、倉内憲孝、栗原静子(2)、黒田一雄、黒羽宏、久津間優子、町田恵子、町田航、牧美保子(2)、槇操、馬杉栄一、松平吉世、松井正枝、松岡弘、松崎松平(2)、真弓 忠、宮野尾光正、宮内俊治、水須善行、森尾正照、森下明子、村田忠禧、村山秀男、中原和夫(2)、中畠正喜(2)、中嶋源吾、中元菅根(2)、中村洋一、中野正明、中曽根信(3)、日本養成学会、西田祥子、西垣宰朋、西原彰一、西嶋勝彦、西本梶、西村清人、西谷隆義、新田宣子、野田(小金丸)春美、野口明美、野村美知子(3)、小田中聡樹、小川巖、小川輝夫、小木曾大(2)、小木曾建、小木曾友(3)、小倉尚子、小原正敏、大西一郎、岡島昭治、岡崎道子(2)、大木直美、大久保伸枝、奥山節子、奥山義夫、大村光、小野寺武夫、小野里光博、大澤龍、忍足絵美、忍足眞理、大杉立、大谷里恵子、六文会、斎藤雅史、齋藤美知子、

齋藤やす子、酒井杏郎、榊正義・正子、酒巻彩乃、坂元ひろ子、三溝弘悦、早乙女和義・博子、佐藤郁夫、佐藤正文(2)、佐藤玲、澤登千恵子、渋谷寧伸、清水国夫、清水勇治・泰代(2)、白石勝己、白石勤、白鳥文子、代田泰彦、尚美学園大学国際交流センター、染谷公久、染谷誠、總寧寺、菅原照代、杉本宏樹、杉浦貴和子、杉山兼一、栖原暁、鈴木繁、鈴木智、鈴木八重子、鈴木順子、田川明子、田口久美子、田口昌子、田尻英三、高道俊彦(2)、高木桂子、高橋喜久江、高橋満、高橋作太郎(2)、高橋幸枝、高橋雄造、高野靖子、高柳直正、竹林惟允(2)、竹田肇・和子(2)、竹嶋俊紀、宅間薫(2)、田守智恵子(2)、田中千佳子、田中雅幸、田中美智子(2)、田中利恵子、田中紳一郎、田中多美子(2)、田中稔子・静子、谷口哲雄、寺門克郎、寺尾方孝・三枝子、寺沢宏次、田井満里、田井良知、田井亮吉、戸田清、鴛田純一・由美(2)、東京華僑総会、富岡昭二郎、外山経子(8)、豊島由久、土屋元子、土屋幸子、佃吉一(2)、鶴尾能子、堤祐子(2)、内山敦之、宇戸清治、上高子、上田菜生、植田泰史、畝本昌介、漆鳥才子、渡辺譲二、藪下勝、山田守一、山田裕子、山口憲明(3)、山本斉、山本出、山本章治、山野井昭雄、山之内正彦・萩子、山下靖典、山海保、山崎光郎(3)、依田良子、横山昌幸、横沢喜久子、吉田裕子、吉田菜穂子、吉原エツ子、吉川英一(在中国)、湯山佳代、匿名希望(3名)、50周年委員会売上(4)

<韓国> 崔銀珠(在日)、韓英鳩、西原景哲(在日)、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook(尹誠國、在日)、禹守根(在中国)

<ラオス> Chanthasone Inthavong(在日)

<マレーシア>

2011年11月12日留日学生同窓会パーティー一同、Adelyn Ngo、Amy Tan(陈春莲)、Ang Gi Moh(洪以谋)、Ang Khoon Chye(汪坤才)(2)、Ang Lip Chee(洪立志)、Ang Sheng Feng(洪巧芬)、Ang Wan Leng、Apple Vacation & Conventions Sdn. Bhd.[苹果旅游有限公司; Koh Yock Heng(許育興)]、Aw Leong Gee(欧良義)、Beh Chor Kim、Beh Teck Chuan、Boon Woo Seng(温武成)、CM Aung、Cha Yee Seng(謝宇誠)、Chan Huan Pang(曾煥邦)、Chang Chew Chin(張昭成)(3)、Charles Chow(邹贵璋)、Chaw Kam Shiang(周錦生)、Cheong Bee Nah(鍾美娜)、Chew Ching Seng(周昌盛)(2)/Low Kim Lee(刘金莉)、Chew Fook Keong(周福强)/Goh Ger Teng(呉月婷)、Chia Hong Hyiap(謝鴻業)、Chia Li Teck(謝礼得)、Chia Mee Hang(蔡美賢)、Chin Yok Wan(陳玉旺)(2)、Chin Saw Kiun(陳少勤、在日)、Chiu Jin Eng(冰周人英)/林恵冰、Chong Piang Wee(张炳辉)、Chong Teek Foh(張德福)(2)/Chow Soo Lin、Choo Yun Fah、Choong Chee Yee、Chow Kwee Lin(邹貴仁)、Chuah Yeon Hang(蔡耀漢)/Keong Chin Huai(強青懷)、Chuan Seong Tiang(Jeff Tiang)、Clifford Lee(李進才)、Ee Ley Tiong(余励忠)(2)、Fong Cheong Thiam(洪昌添)、Foo Hee Hiang(符氣強)(2)、Foo Keah Keat、Foo Ming Lian(符明蓮)、Foo Siang Seng(符祥盛)(2)、Foo Soo Kong(符素光)(2)、Gan Kok Seng(顔国成)、Gan Seu Kian(顔綉涓)、Gan Teck Yeow(顔得耀)(2)、Goh Peng Ooi、Goh Swee See(呉瑞獅)、Ham Poh Can(范宝权)、Ham Poh Chyan、Heong See Yoon(香世运)(2)、How Chai Nguan(侯再源)、Kenneth Wong(黄復翔)(2)、Kevin Ng(呉錦強)、Khu Hwa Leng(邱華龍)、Koh Hong Hwee(許鴻輝)、Kong Guan Wie(江

元偉)、Kong Sian Shih

(江幸柿)、Lai Yoon

Poh (赖永保)、Lau Kok

Yong (刘国荣)、Lau Sau

Hong (劉少峰、在日)、

Lau Shiang Horng、Lau

Weng Wah (刘润华)、

Lee Check Poh(李志保)/

Ng Sui Ying(黄瑞英)、

Lee Chee Heong (李志

雄)、Lee Kian Ling(李建

霖)、Lee Kian Ling (李

健霖)、Lee Kong/Lam

Chok Yak、Lee Leong

King (黎亮景)、Lee

Liong Mui、Lee Miow

Ying(李妙英)、Lee Mow

Tiam (李茂添) (2)、Lee

Tee Boon (李智文) (2)、

Lee Tiam Hing (李天興)、

Lee Yuet Keong (呂月

強) /Kek Sai Fong (郭

思坊)、Leong Khee Hoo

(梁其和) (2)、Leong

Thiat Eng (梁德榮) (2)、

Leong Wing Sum (梁永森)、Lew Kim Song (劉金雄)、Liaw CK (廖俊光)、Liew Teck

Boon (劉德文) (2)、Lim Bok Hek (林木火)、Lim Chee Tian (林志田)、Lim Chin Ee (林振意)、

Lim Chong Chan (林忠贊)、Lim Hock Lai (林福来) (2)、Lim Liong Chu (林良住)、Lim

May Yan (Mmrcia Lum May Yan) (2)、Lim Peng Jin (Scientex Japan Co., Ltd.)、Lim

Sin Yean(林欣燕)、Lim Tian Huat (林天发)、Lim Yok Chai (林意財)、Loh KC (羅國

俊)、Loke Hon Yee (陆汉宇) (2)/June Tan (陈素芯)、Low Cho Kee (刘助基)、Low Han

Peng (刘汉平)、Low Kim Lee(劉金莉)、Low Leong Meng (羅亮明)、Na Chin Teong

(藍振忠)、Ng Chin Keong (黄振強) (2)、Ng Chuan Aik (Tony Cang ; 黄泉毓)、Ng Eng

Hooi (黄永輝)、Ng Kim Chai (黄金財) (2)、Ng Mee Wah (吳劍華)、Ng Teong Guan (黄

忠元)、Ng Thian Eng (黄殿英)、Ngiam Tee Seng (嚴世清) (2)、Ngwan Boon Ming (阮

文明)、Ong Cheng Chuan(王清川)、Ong Ching Long (王建龍)、Ong Chooi Lee (王翠莉)、

Ong Poh Heng (王宝慶)、Ong Thye Beng (王泰明)、Ong Yee Meng (王玉明)、Pang

2012/5/31 現在 ABK 同窓生募金国別集計

国・地域	件数	合計額	備考
日本	318	17,839,712	含、在外/同一人複数回
マレーシア	290	12,013,088	含、在外/同一人複数回/日本人
タイ	49	5,050,426	内日本人17(¥218,733)
中国	40	2,410,000	含、在外/在日他
ベトナム	6	1,413,000	含、在日
ブラジル	12	627,015	
韓国	7	420,000	含、在日他
カンボジア	1	300,000	在日
シンガポール	7	350,140	含、在日
インド	7	190,000	含、在日
香港	4	170,000	
台湾	8	145,000	含、在日
ミャンマー	1	50,000	
バングラデシ	2	40,000	含、在日
イラク	1	10,000	
インドネシア	1	10,000	
パキスタン	1	10,000	在日
ペルー	1	10,000	在日
ラオス	1	10,000	在日
合計	757	<u>41,068,381</u>	

Choon Boon(彭俊文)、Pang Pow Kwee (方宝貴)、Pang Yuet Hueng (彭月紅)、Phang Siew Kiong (彭修強)、Poh Siew Hui(傅秀慧)、Quah Saw Ting、Quah Soh Teah、Seah Boon Chieng (謝文清)、Shia Wei Jong (余維忠)、Siau Fook Siong (箫福祥)、Siew Moey Yen、Sim Eng Kang (沈永江)、Sim Kee Hong (沈其豐) (2)、Sim Kim Ling、Simon Liow (廖天發) /Ho CL (何俛伶)、Soh Keh Woei (蘇克偉) (2)、Soo Seck Heng (苏锡兴) (2)、Soon Kian Seng (孫健勝)、SKK Kaken (M) Sdn Bhd、Soon Sai Kheng (宋世勤)、Stanley Lian、Su Kui Sheng (蘇桂昇)、Sui Kwai Chan、Tan Boon Liang (陳文亮) (2)、Tan Chaik Kwang (陳澤光)、Tan Chee Kiong (陳志強)、Tan Chee Teong (陳治中)、Tan Cheet Yong (唐志勇) (2)、Tan Chew Mooi (陈秋妹)、Tan Hwee Ing、Tan Keah Moh (陳佳茂)、Tan Kee Hang (陈继汉) (3)、Tan Pang Tee (陈邦智)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan See Seng (陳時生)、Tan Soo Sin(陳素芯)、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng (陈为胜) (2)、Tang Eng Huat(陳永尧) (2)、Tang Gek Eng (陈玉英)、Tang Kok Lian (湯国亮) (3)、Tang Miow Chin (湯妙晶)、Tee Choon Hong (2)、Teh Chong Yee(鄭忠義) (2)、Teng Kim Yin(鄧錦雲)、Teo Bee Hong (張美宏)、Teo Boon Lian (張文連)、Teo Chuan Soon (張川順)、Teoh Eng Choo (張映水)、Teo Kian Song、Teo Kwee Swee (张贵水) (2)、Teo Tiam Hwa (張添華)、Teoh Eng See (張映絲)、Tey Khern (郑勤)、Tey Kian Teong (鄭建忠)、Thye Meng Yu (鄭茗友)、Tiang Chuan Seong(鄭俊雄)、Toh Leong Chee (卓良志)、Toh Peng (杜平)、Wong Chao Hsiung、Wong Chee Ken (黃啓耕)、Wong Chin Shiuan (黃晋軒) (2)、Wong Choon Leng、Wong Fee Ping(黃慧萍)、Wong Jiunn Shyong、Wong Ka Seng (王家成)、Wong Kok Hoi、Wong Kuok Hung(黃國鳳)、Wong Seng Keng(黃成耕) (2)、Wong Sheong Chin (黃錦进)、Wong Tzong Chyang(黃宗強) (2)、Yeung King Hong、Yong Chin Chew (楊清洲)、Yap Geng Yi (叶耿瑜)、Yap Shin Woei (葉信偉)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yong Cheng Yun (楊青雲)、Yong Hon Wee (楊漢威)、Yong Kian Teck (杨建德)、Yong Kok Lin (楊国霖)

坂東慶彦、藤田陽一、深民崇夫、石原政一、伊藤要、稲田幸司、越場直樹、五条章二、河野修、小松電機産業(株)代表取締役小松昭夫、水田康広、森下治幸、大須賀稔晴、貞包物産(株)、柴田保、下村安秋、SKK Kaken (M) Sdn Bhd、田中公治、塚本秀幸、山内一弘、山川勇人、山縣みさ、山根行弘、不明 1

<ミャンマー> Aung Kyaw

<パキスタン> A. R. Siddiqi (在日)

<ペルー> Olga Shimada Keiko

<シンガポール> Foo Choo Wei(在日)、Foo Yong Tse、顔尚強、王癸其、Tan Choon Shian、Wong Meng Quang

<台湾> Chen Ai Chi (陳艾圻)、張忠信 (在日)、林丕繼、林登居・斎藤ヒサ子 (在日)、Liu Li Mei、堤井信力 (在日)、廖婉淑、陳俊銘 (在日)

<タイ> 浅見博子 (在タイ)、Bandihit Rojarayanont、Chamlong Srimuang、Chanintorn

Mekaratana, Chovet Yimsirikul, Ditdi Chatputtongul, Gannigar Koontanakulvong (2)、Itti Rittaporn、神崎ソラダ (在日)、Kornkeo Praisontarangkul、Kraisorn Throngnymchai (在日)、Krisada Visavateeranon、Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham、Navarat Srisuponvanit、Ngampho Patrawut、Niramai Thanatavee、小野崎忠士 (在タイ)、Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、Pilaipan Mekaratana(2)、Pisan Thanatavee、Pholchai Limviphuvadh、Pornanong Niyomka H.、Prayad Kongkasawad、Prayoon Shiowatana、Sathida Mekaratana、Saowanee Patrakarn、新宅光 (在タイ)、Sivaporn Sirilatthayakorn、Sucharit Koontanakulvong (2)、Suchittra Hunbuncharkit(2)、Supong Chayutsahakij、Suthee Chutchaiwett、Suvit Vibulsresth、泰日経済技術振興協会 [Technology Promotion Association (Thailand-Japan)]、泰日工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology)、Tana Tangtrongsakdi、Vachiranee Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Virat Thiravathanavong、Wannadee O'sorup、Wiwut Tanthapanichakoon、柳瀬修三 (在タイ)、Yoshiko Limviphuvadh、

<ベトナム> Dao Thi Minh (在日)、ドンズー日本語学校、Le Quynh Chi (在日)、Nguyen An Trung、Tai Anh Tien (在日)、To Buu Luong (在日)、Tran Thanh Viet (在日)

第 496 号本コーナーで、一部の方のお名前が抜けておりました。ここにお詫び申し上げます。

ABK 同窓生募金に関するメール

2012/6/12 Foo Hee Hiang (マレーシア)

皆様、FB の名称が ABK 同窓生になっていますが、皆様は ABK との出逢いに對し誇りを持っているとか、有難い気持とか、不満をもっているとか、人数が多いためいろいろ違ったものを持っていると思います。これから、ABK にこういうことをして欲しい、もっとあういうことに頑張って欲しい、昔に俺にはこんな文句がありましたとか、適当にこの場を借りて言ってもらえればいいんじゃないですか？

また、日本に留学に行ったので、日本は大変な災難以外に募金何か軽く言い出す文化ではないことを理解してもらえそうです。同窓生募金とい

うのは、ABK と出逢った海外の人達を対象していると思います。それも一人の力ではなく、全員の力でほんの少しの気持で作り上げられ、達成出来ることを期待していることです。マレーシアは国の事情で中国系の人達は、中国系の学校のために募金の話が毎日が聞こえる様なもので、変わった文化というか、気にせず協力してもらえます。五千万円の道が既に四千万円まで辿り着いてきましたが、ABK 日本語コースの卒業生だけで、六千人を超えています。どうして皆が知らん顔をしているのか？ 残りの 800 万円は、一人一万円で楽に出来ることだと思います。

皆様、頑張って一日も早くこの募金の目標を達成

させ、ABK の関係者がより余裕をもってこれから日本へ留学に行く人達のために協力して頂けるように、その環境を作って下さい。この FB も永遠にこの話題が現れる様になって欲しくはありません。皆様、宜しく願います。(同窓会 facebook より)

2012/5/29 AAB 中島

FOO さん いつもお世話になっています。「アジアの友」12 頁、13 頁の Foo さん写真見ました。さて、ABK と AAB との協業をこれから出来るだけして行くことを考えています。その第一歩として、日本人にもっともっと ABK の活動等を知って貰うことに AAB も協力していく為、6 月 1 日(金) 14:00 同協会の幹部に日刊工業新聞の記者を紹介することとなりました。もし、Foo さんの御嬢さんが居られたら同記者(大城嬢)をご紹介させていただきます。同記者は AAB の良き理解者で、現在インドネシア語を学んでいます。以上

2012/5/24 Foo Hee Hiang (マレーシア)

皆様 こんにちは。アジアの友 4~5 月版を送付しますので、宜しくご査収願います。また、「ABK 同窓会」Facebook にいろな情報が掲載されており、何か連絡することがありましたら、この FB に掲載しますので、この FB に参加し、お友達もこの FB に Add して下さいよう宜しくお願いします。以上、宜しくお願いします。

2012/5/24 Foo Hee Hiang (マレーシア)

昨日 91 年卒の Tay Kiam Guan さんから Ang Khoon Chye 先輩の募金口座に振り込んで頂きました、有難うございます。91 年度の同窓生が頑張ってくれています。皆さん、自分の仲間にこの情報を伝えて下さい。Facebook を持っている方をこの FB に参加する様にして

下さい。(同窓会 facebook より)

2012/5/21 柳瀬修三 (日本、在タイ)

昨日(5/20)の ABK-AOTS 同窓会総会には仕事の関係から参加できませんでした。本日下記の連絡が前会長ピンピライさんからありましたので転送申し上げます。新会長にはソムシー・チュンハサワディクンさん(女性)が選ばれたとのことです。

2012/05/14 Chuie Wai Kong (朱威金光、マレーシア)

領収書届きました。ありがとうございます。

2012/05/14 小木曾友(財)アジア学生文化協会理事長

李 えん様 本日、絵画 5 点。世界堂より届きました。すぐに開き、美しい見事な牡丹の絵が現れて、一瞬、息を呑みました。額にまで入れてくださって、それも 5 点も。本当に何とお礼を申し上げていか、言葉がありません。ただただ、感謝あるのみです。前にもお話したことがあったと思いますが、これを ABK 関係者の間で(海外にも)オークションにかけて、なるべく高額で買ってもらおうと考えています。とりあえず、お礼まで。

2012/05/12 Foo Hee Hiang (マレーシア)

ABK 同窓生募金協力者の皆様 お早うございます。この度、ABK 同窓生募金にご協力頂き有難うございます。皆様のご協力により募金の進捗が 5,000 万円への目標には、後約 800 万円になりました。今回の協力者の中でも二度目、三度目のご寄付を頂き、誠に感謝しています。さて、5 月 10 日に今回第六回目の送金を、Tan Chee Teong 様に委託して ABK に届けて頂き

ましたことを連絡させていただきます。毎回 ABK への送金は、銀行に經由した場合は RM 25 + 4,000 円の手数料が銀行に取られますが、今回の金額が少なく振込みにはもったいなく、出張者に委託する形にしました。これから ABK から直接皆様個別に寄付金額が明記された領収書をメールで直接発送しますので、後日に宜しくご確認願います。もし、金額または何か間違ひがありました場合は、遠慮なくご連絡下さい。また、Tan 様が小木曾理事長様に募金を引き渡した写真及び記事が、小木曾理事長様より「ABK 同窓会」Facebook にポストされていますので、ご確認願います。最後に、残りの約 800 万円の道を、あきらめず頑張らなければなりません、皆様にご存知の同窓生がいらっしゃいましたら、宜しくこの便りを伝えて頂けるようお願いいたします。または、上記の「ABK 同窓会」Facebook に参加して（仲間と一緒に）呼掛けをご協力頂たく宜しく願います。最後に、再びご協力にお礼を申し上げます。（同窓会 facebook より）

2012/5/11 Foo Hee Hiang（マレーシア）

皆様、4 月 30 日付の募金集計結果を掲載します。（備考：正確な集計は今度出版するアジアの友に参照下さい）ご覧通り、予定にあった各国の入金が届いて約 4,200 万円になるでしょうと考えられます。残り 800 万円が必要になります。ABK から身元保証、在館世話、奨学金授与、日本語コース育成、進学世話、個人までの面倒等にご協力を受けた学生人数は 2,000 人以上います。下記の表に示した協力者は 259 名しかいませんでした。皆様、今の姿にある自分から昔のことを振り返ってみて下さい。ABK が恩返のチャンスを作って下さっているのに、大事にこのチャンスを使って下さい。（同窓会 facebook より）

2012/5/7 Foo Hee Hiang（マレーシア）

誰か近々にマレーシアから日本へ出張する方がいらっしゃいますか？ ABK への協力金を届けてほしい。金額が少なく、銀行に手数料を取られるのが勿体ないです。（同窓会 facebook より）

2012/5/7 Lee Mow Tiam（マレーシア）

ABK の寄付につて第三弾目は、、、、ABK の同窓会に任せる？何かやらないと止まってしまうよ。ABK の元卒業生皆さま、元気出して頑張りましょう。われわれは応援します！（同窓会 facebook より）

2012/5/5 Foo Hee Hiang（マレーシア）

Facebook で、登録メンバーが 500 人になったのを受けて、Tee CH さんが ABK への会費について、次のような提案をしています。（ありがたいことです）

数の魔法：500 x 一口 = 五百万円、500 x 二口 = 一千万円、1000 x 一口 = 一千万円、1000 x 二口 = 二千万円、数の倍率効果を狙いましょう。（同窓会 facebook より）

2012/5/2 Lee Mow Tiam（マレーシア）

皆様、こんにちは！ 5 月 24 日（木曜日）JB で第二回目四木会を開催いたしますので JB とシンガポールの元留学生にご出席をお願いいたします。交流会ですので遠慮なく参加ください。、、、四木会は遠慮と貧乏が嫌い！！！！KL も三木会をお願い、、、三金会でもいいかな。Teh さま貴兄に任せるぞ！（同窓会 facebook より）

2012/5/2 Wong Tzong Chyangg（黄宗強、マレーシア、北京在住）

突然のお邪魔でご迷惑を掛けたくと思います。お許しを下さい。北京オリンピック前一度 ABK

に立ち寄ったことがあり、現在の ABK は皆様の手厚い手入れにより以前よりもずいぶん明るくなったかと思えます。今回は突然の東京出張で、巧く段取り出来ず、次回は前もって段取るようにします。別便で領収書が届いたので、有難うございました。次回会う日迄お楽しみに。

2012/04/30 Liew Teck Boon (劉徳文、マレーシア)

i am apologized for the late reply on your email.yes, i have confirmed and the donation figures is also correct. i will visit our new ABK building if there is opportunities.Thank you for everyone have make most effort on this matter and sincerely praying for everyone good luck, good health and good happiness. Best Regards

2012/04/26 Foo Hee Hiang (マレーシア)

ABK 同窓生募金へご協力の皆様お早うございます。昨日までアジア学生文化協会、ABK から皆様宛にご協力を下さった募金の領収書を発行しましたことを確認させて頂きたくこのメールを送らせて頂きます。今回の領収書は3月一杯までにご協力を頂いた分のみですので、4月以後の分はまだ弊グループから ABK へ送金しておらず、ご協力を下さった皆様の中に、連続的に毎月ご協力をなさっている方々がいらっしゃいますので、間違いのないようにご確認願います。場合により、容量の問題とかで送付したメールが届かないことが起き得ますので、このメールには添付ファイルが付いていなく、問題なく皆様の所に届くと思います。もし、領収書発送メールを受領なさっていない、または金額が合っていないとかの方がいらっしゃいましたら、私

の方に連絡をして下さい。以上で、宜しくご確認願います。再び、皆様のご協力にお礼を申し上げます。追伸：「ABK 同窓会」Facebook に定期的に学校法人の申請及び建築工事の進捗状況を掲載したいと考えていますので、どうぞ上記の Facebook をご覧になって下さい。また Facebook の口座をお持ちの方は出来たらこの Facebook に参加してご意見下さい。また、ご存知の同窓生がいらっしゃいましたらこの Facebook に Add してネットワークを作りましょう。宜しくお願いします。備考：皆様へは BCC で送らせて頂いています以上。

2012/04/25 Tee (マレーシア)

ABK 同窓会募金をきっかけに ABK とご縁がある人が再び集まり、また ABK の将来に少しでも力になることであれば幸せです。小木曾理事長と布施さんも頑張ってくださいね。

2012/04/25 Lee Mow Tiam/Tan Peck Ming ご夫妻 (マレーシア)

いつもお世話になっております。ご存知ように我々私費留学生は日本に留学出来るのは ABK のお陰で留学できましたので今までにもその感謝、感謝の気持ちを持っております。昨年 11 月ごろ ABK 同窓生募金に関しましての知らせを分かって、なんかしないと恥かた自分はその思っております。あの時、すぐ Foo HH 様と連絡して少しでも力を出さなければなりませんとお互いに了解の気持ちを持っています。アイデアとして元日本留学生の皆様呼びかけて力を合わせて ABK に恩を返しましょう。勿論、金財先輩と Ang 先輩の意見を聞いてから発起人を集めて一緒に行動しました。本当に良かった、良かったのは元日本留学生のみな様はこの ABK 同窓生募金に関しましての事を力を合わせて応援しました。

ABK へのご寄付を集めることができまして金財先輩、Ang 先輩をはじめ皆さまのおかげだと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。敬具

2012/04/25 Lim CE (マレーシア)

Thanks for your e-mail. I am very sorry to heard that Kudo san sufered from stroke. I felt very sad to heard this news by your e-mail firsttime. Actually my parents both also suffered from stroke. Even my eldest broher also this year begin also get stroke. Now I am really take care my health. If you can meet with Kudo san, please inform to him oodaijini. By the way, former dosokai Kaichou Cheah Chun Keat san also get stroke about 2 years ago. now is recovering back. Thank you very much to Fuse san for all the effort contributed to ABK. Hope to see you in Penang.

2012/04/25 鄭忠義 (マレーシア)

わざわざお礼のメールをいただき、ありがとうございました。私たちはほんの少し恩返しの気持ちで仲間と呼びかけて応援して貰うようにしただけです。当時もし ABK の助けがなければ、我々皆が今の成功に至らないはずです。これからも ABK を継続に援助できるようないろいろな方法を模索している。符さんが先頭に立って相談があると思います。来年 3 月新校舎が完成するとき我々も参加するつもりです。以上、宜しくお願いします。

2012/04/25 黄振強 (マレーシア)

領収書を送て頂き、どうも有り難う御座いました。これからみんな様もっと忙しくなりますと

思いますので、御健康も気を付けて心より御祈り申し上げます。マレーシア方も ABK をずっと応援していくことを信じております。以上宜しくお願い申し上げます。

2012/04/24 劉開順 (マレーシア、在日)

こちらこそ、20 年数年間 ABK からたくさんの恩恵を頂きました OB としては、微力ですが、少しでも役に立てばと思っています。さて、領収書に関しては、会社宛に送って頂きませんか。また、アジアの友も同様に会社宛てに送って頂ければ、財団内に回覧しておきます。これからもよろしくお願いいたします。

2012/04/19 Kenneth Wong (マレーシア、在シンガポール)

お早うございます。先日、符さんから転送してもらって、領収書がいま手元に有りますので、ご安心下さい。(確かに、あなたからの四月七日付けの小生宛のメールは届いていなかったです。) 今、気が付いたのは四月の九日の日に(月曜日)符さんが同窓会の FB に何枚かの桜花の写真を登載していた写真は全部は布施さんの傑作でしたね(撮った写真ですね)。つい二日前の朝の車のラジオで東北の石巻市では又寒い日々が続いて、桜の蕾はあるが、又咲くところではない様子だそうです。桜は本当に綺麗で、見ても、何でも癒しになる気分、これからも東北の人たちにもっと元気に戻せる力になるはず。桜のこと(写真)を気を遣ってくれまして大変ありがとうございました。また、昨日会社の近くに YAP MEN FATT 大先輩と三週間ぶりの再会で、ランチーを取り、その後、彼氏から、千ドルの新(星)ドルの小切手を寄付金として頂きました。手元にもう一人のマレーシアの 1990 期同窓生藩進財さん(MR.

PUAH CHIN CHYE) の RM200 を合わせ、七万円弱で月末で会館に送りしますので宜しく願います。両方とも、本人の名義で領収書をご発行をお願いします。また、添付に先月 25 日夜の全員の写真を一枚を送ります。(場所は JUMBO SEAFOOD AT RIVERSIDE) また、元気で。Thanks and Best Regards,

2012/04/14 Foo Hee Hiang(マレーシア)

小木曾理事長殿 早速の返信有難うございます。先輩達に話を聞いてみました、取り敢えず ABK 同窓会 FB には、皆に興味を持たせて常に読んでくれるようにしなければなりません。そのために、皆に情報になるようないろな情報出さなくてははいけませんし、冗談話でも出さなきゃこの FB が眠ってしまいます。そして、会員になってもらう話とか、マレーシア ABK 同窓会の設立とかは、来年学校の建築工事の竣工に合わせて考えた方がよいではないか？と Ang さんが提案してきました。これはいいアイデアと私も思います。取り敢えずこれから竣工までには、この FB を大きくし、定期的に学校法人登録及び建築工事の進捗状況を報告したいと考えています。もし、理事長の方で何か皆に知ってもらいたいとかの様な情報材料がありましたら、宜しくお願いします。例えば、新年度での新入生の人数が輻射の問題で学生の人数が減ったのか？増えたのか？マレーシアの学生が何%いたとか、統一試験がどうなったかどうか、大学受験成績が良かったとか、時間がありましたら、この FB に簡単に掲載して下されば、皆は関心してくれると思います。また、それも ABK の宣伝になると考えられます。上記のような内容で支障のない範囲でお願いしたいと思います。そろそろ、元留日学生達の二代目は大学へ進学する時期になってきますので、もし日本へ送り込

むようであれば、これらの情報が皆に役に立つと考えられます。宜しくご検討願います。

2012/04/14 Foo Hee Hiang(マレーシア)

小木曾理事長殿 今日、3 月 24 日に説明会に連れて行った白石さんと飲みました。白石さんから穂積先生の本、アジアの友に書かれた穂積精神の資料がありますかととの質問がありました。白石さんは、五回目の送金にご協力を頂いており、今まで日本での出版社に編集の仕事をやってきて、今マレーシアにセカントホームで約二年くらい住んでいます。すごく本を読むことが趣味で、穂積先生のことに興味を示しています。これらの資料または本がありましたら、ご連絡頂きたく宜しくお願いします。以上。

2012/04/14 Foo Hee Hiang(マレーシア)

小木曾理事長殿 お早うございます。早速のご返信及びご検討、有難うございます。下記のご意見は、内容的に把握出来ていませんが、再度ご説明を頂けますか？そして、もし、可能なら、マレーシアの同窓会として、日本の ABK には団体会費(賛助会員 5 万円、特別会員 10 万円)を(何口でも)収めていただいてはどうでしょうか。(その方が事務的にも簡単でわかりやすい) ご提案は、既に Ang 先輩からアイデアがありましたが、これを管理していくことがなかなか難しいとの判断でそのままにおいておきました。取りあえず、直接皆がアジアの友に会員になるようだけが生きています。今、ABK 同窓会 FB にやっていることは、上記のための戦略で、人数がある程度増えてきて、時期的に選んでこの話題をポストしようと考えています。理事長の FB に Friend となっている同窓生を Add 下さい。今日で Alvin さんが増やしてくれて 450 名の FB になりました。この提案は、

金財及び坤才先輩に混じって意見を確認した方がよいと思います。

2012/4/15 倉部絹代（日本、元 ABK 職員）
マレーシアの元日本留学生のみなさんの熱心な寄付活動に頭の下がる思いです。若き日に、日本で緊張感に充ちた留学生生活を送っていた輝く瞳の彼等が、今日一家を成し、お国の発展を支える働き盛りとして活躍していらっしゃるご様子に感激し、時の流れを思います。穂積先生がお創りになったアジア文化会館は、留学生を支え、共に学ぶ場としての potential に充ちた場であるのだと、今更ながら実感している次第です。みなさんの温かい思いが集まって新生なる日本語学校と協会の今後のご発展を心より記念しております。

2012/4/7 Ham Poh Can（マレーシア）
こちらこそ、協力する機会を与えて頂いてありがとうございます。ABK 日本語学校がないと今の私はないはずです。新校舎完成は予定通り行なうように心からお祈り申し上げます。以上（1991 年 3 月卒業）

2012/4/5 Foo Hee Hiang（マレーシア）
ABK 同窓生募金にご協力有難うございます。昨日はこの FB の 4 名のメンバーからご協力を頂きました。誠に有難うございます。もっと、もっと、もっと頑張りましょう！（同窓会 facebook より）

2012/4/5 Foo Hee Hiang（マレーシア）
ABK 同窓生募金にご協力の皆様ー 2012 年 4 月 3 日進捗状況の報告：皆様のお陰様で 4,000 万円を達成出来、本当に皆様のご協力を感謝します。3 月建築工事が着工され、これから学校

法人の登録手続きが進められる予定になっています。運営資金 5,000 万円の目標には残り約 1,000 万円の調達が必要になりますが、3 月末における全般計画のマイルストーン、学校法人の登録手続きも皆様のご協力によって予定に乘せることが出来ましたので、時間的な余裕は出来ています。引き続き、まだ連絡が取れていない同窓生にこの情報が届くように、ご存知の方々がいらっしゃいましたら、本 Facebook のメンバーになるように伝えて頂きたく宜しくお願いします。再度、皆様のご協力にお礼を申し上げます。（同窓会 facebook より）

2012/4/4 Tee Ch（マレーシア）

小木 曾 理 事 長、your commitment to the cause of ABK touches all our hearts. The world will be a better and more peaceful place with more people like your fine example.

2014/3 小木曾友（財）アジア学生文化協会理事長

FOO HEE HI ANG 様 ご丁重なメール拝受いたしました。いつもながらの FOO 様の行き届いたご配慮にはただ感服・感謝あるのみです。Jagong Malaysia Banzai (JMB) の Facebook に早速下記文章（英文）を掲載させていただきましますこれにてご容赦ください。
Mr. Yeonhang Chuah and Friends, Jagong Banzai Malaysia,
Thank you very much for your great cooperation in ABK Dosokai Fund Raising, thank you indeed ! We would like to report hereby the progress of fund raising as of today, April 3, 2012. as follows and on the ABK Dosokai website:

ABKD HP <http://abkdnews.blog.so-net.ne.jp/archive/c2301582667-1>

The fixed amount of received donation is JY38,854, 881, though JY1,492,000 remains unreceived yet from Malaysia and Thailand as of Mar. 31, 2012. We are sure that the amount of donation has reached the target of JY40 million on Mar. 31, 2012. With your kind cooperations we have successfully obtained the fund JY35million which we need badly to apply to Tokyo Metropolitan Government for constructing a new schoolhouse. We have already started the construction work within March 2012 and we are sure that the new schoolhouse building will be completed next March. We expect that we could proceed furthermore to the final target JY50 million by our untiring efforts including your generous and eager cooperation from now on, too. We express our deepest gratitude again for your unselfish cooperation without which our fund raising campaign would have been impossible to achieve such a great success.

OGISO Yu, Director General, Asian Students Cultural Association
以上、とりあえずお礼とご連絡まで。

2012/4/3 Keong Chin Huai(強青懷、マレーシア、在日)

先日はわざわざメールとお電話を頂きましてありがとうございました。先日の日曜日、特に用事はありませんでしたが、少しドライブのついで

に主人と二人で ABK に立ち寄りました。ABK は以前とほぼ変わりませんが、周囲の景色や建物は大変変わりましたのに少しびっくりしました。またの機会に ABK をお邪魔いたします。これからもどうぞよろしくお願いいたします。(ガーデンクリニック広尾院長)

2012/4/3 GARY TANG (マレーシア)

Yoku ganbatta! gokurasama deshita!

2012/4/2 CHANG Chew Chin(マレーシア)

S さん…。さて、主題の件につき、添付の資料を読んでいただきたいです。…、一度 この件に対して A 財団より何かの形で ご寄付いただけるかと相談していただけないでしょうか？ 私ら大勢の留学生らがこの ABK より お世話になって、何かの形で恩を返したいと思って失礼ですがこのメールで協力お願いしていただきたいです。

2012/3/31 Foo Hee Hiang (マレーシア)

皆様 3 月 24 日の元留日同窓生パーティのご参加有難うございました。今回の参加者は 77 名になりました。立派な出席率ですが、もっと人数がいるはずだと思いますが、今度この記録を潰しましょう、100 人を超えるように頑張りましょう。さて、当日のスライド写真は完全なものではありませんでしたが、一応出来上がりました。下記の Facebook に載せていますので、ご覧になって下さい。＜ Facebook : 「ABK 同窓会」＞この FB は、主に 90 年代の同窓生のものでしたが、最初はこのプラットフォームを借りつもりでしたが、「ABK 同窓生」の名称が取られていましたので、そのまま利用するかな～と考えています。このグループの創立者に相談してみます。ここに、皆様がもし FB 口座をお

持ちの方はこの FB に参加して欲しい。これからこの FB をベースのプラットフォームにしたいと考えています。何か皆様に連絡したい場合には、この FB に掲載します。相談したいことがあるとか、元留日学生を就職に紹介したいとか、このプラットフォームを情報交換のセンターにしたらどうかと思っています。最後に、FB に載せているスライド写真及び小木曾理事長の講演のビデオは、Copy Right のため、Background Music を殺したバージョンです。オリジナルはあんな www.imtoo.com がついていません。音楽を消すために Download した Trail ソフトで修正したための出来物です。特別要請がある場合には CD を用意します。李茂添さんまたは私に連絡して下さい。以上。

2012/3/31 小木曾友（財）アジア学生文化協会理事長

Mark Lee さん作成の「同窓会パーティ全出席者」のビデオも拝見しました。何度も何度も見ました。そして、涙がまた流れて止まりませんでした。これは ABK と全 ABK 同窓生の宝です。これからもマレーシアだけでなく、全世界で開かれる ABK 同窓生パーティでこのようなビデオができて溜まっていけば、それは「世界 ABK 同窓生ネットワーク」の貴重な財産になり、後輩の皆さんへの遺産にもなります。Mark Lee さん、本当に本当にありがとうございました。（同窓会 facebook より）

私と布施さんの説明のビデオ拝見しました。私の話は、時々舌がもつれていますが、話したいことは全部話していますので、安心しました。皆様の顔を見ているうちに、20 年前、30 年前の気持ちになり、つい熱が入りました。そして、皆様の熱い声援を受けて、まだまだこれからも頑張らねばならない、と強く思いました。これ

から、皆様とのどんな新しい交流ができるか、ABK の方でも一生懸命考えます。皆様からもぜひいろいろ知恵を貸してください。地震や原発事故、不景気や円高で元気のなくなった日本の復活は、また新しい ABK からはじめましょう。この度は本当にありがとうございました。（同窓会 facebook より）

2012/3/22 Michio Saito/Yasuko Saito（ブラジル）

サンパウロの齋藤です。もう 40 年前になりますが、広島に留学したとき、アジア文化会館にお世話になりました。現在、この施設救済の募金活動があり、ブラジルからクレジットカード決済で送ろうとしたのですが、どうしてもエラーが出てできず、今月中に解決したいので、父にも話して、そちらに預けてる口座から送ることにいたしました。5 月には、主人と訪日、広島にも行きますが、この件では間に合わないので、よろしくお願いいたします。

2012/3/14 KOH HONS HWEE（許鴻輝、マレーシア）

私は、1970 年ごろ蒼生寮が設立された時期に最初に入寮したマレーシア留学生の一人です。近ごろ、同じく留学生の友人から、「ABK 同窓募金」活動を知り、OB の一員として、この活動を大いに支援したいです。ところが、外国への送金には、銀行の SWIFT CODE が必要になっていますので、お知らせください。以上、宜しくお願いします。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、（社）日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

後 記

インドは奥深く、多様性に富んでいる。いくら話を聞いてもいつも入口に立った感じだ。話の裏づけを取るため色々資料に当たるが、いつまでも入り口が続く。「インドは一つの世界です」とのプラバカル先生からのことがば重くのしかかる。

ここABKは、日本の中にあって長い間インドには比較的近いところにあった。1960年に会館ができてから留学生、研修生と長いことインド人の姿の絶えることがなかった。会館自慢のインドカレーも当時の食堂のチーフだった藤原一枝さんがインドへ赴き、ABK同窓生のお宅を訪ね歩き母親達から直伝の筋金入りのカレーだった。

まだ大学に外国人宿舍がなかった頃は、インドの日本研究のメッカ、ネール大学及びデリー大学の日本研究者たちが、留学で、或いは研究で来日した時の主な居住先はABKだった。日印関係の要となる方々だ。ABKの在館者名簿を細かく当たってみれば短期滞在も含めるとかなりの数に上るインドの日本研究者が滞在している。

念願の当財団日本語コースの学校法人化に伴う東京都への認可申請（学校法人並びに各種学校）を6月19日に行い無事受理されました。2010年から始めたABK同窓生募金が、2012年4月までに約4,000万円集まり、これが申請時重要な役割を果たしました。感謝、感謝です。（F）

アジアの友 2012年 6・7月号

2012年7月20日発行（通刊第497号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13（☎113-8642）

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail：tomo@abk.or.jp

ホームページ：（http://www.abk.or.jp/）

published

by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

「ABK 同窓生募金」へのご協力をお願い

(財) アジア学生文化協会では、現在、下記の通り、「ABK 同窓生募金」を行っています。おかげさまで、沢山の同窓生、関係者のご協力を賜り 2012 年 3 月末までに約 4,000 万円の募金を集めることができました。目標の 5,000 万円まであと一息です。募金期間を一年延長し、今後は、より多くの方々へ募金に関する情報を伝え、まだご協力をいただいていない沢山の同窓生、関係者にご賛同とご支援をいただき実現してゆく所存です。よろしく願いいたします。なお、この度の「ABK 同窓生募金」への寄付者のお名前は、金額の多寡にかかわらず新校舎に掲げる銘板に刻印し、長く保存させていただく予定です。世界的な不況の折、真に心苦しい限りですが、何卒、ご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

財団法人アジア学生文化協会 (ASCA)

理事長 小木曾 友

募金内容

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|------------|------|-----------------|------|----------------|-----|----------------------------------|--------|---------------|------|----------------|
| 1. 名 称 | 同窓生募金 | | | | | | | | | | | | |
| 2. 目標額 | 50,000,000 円 (伍千万円也) | | | | | | | | | | | | |
| 3. 寄付金額 | 一口 10,000 円 <一口未満でもお受けします。但し、一口未満の時は 1000 円以上でお願いします> | | | | | | | | | | | | |
| 4. 使 途 | ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てる (注)
(注) 学校設立には、校舎建設資金 (約 5 億円) のほかに、教育の健全性を保証するために「運営資金」 (約 5,000 万円) を所有することが必要です。募金はそのためのものとします。 | | | | | | | | | | | | |
| 5. 募金対象 | ABK と兄弟寮に居住したことのある各国 (在日を含む) 留学生・技術研修生・日本人学生の OB/OG (約 1,000 人)、ABK 日本語コースの卒業生 (約 4,000 人)、及び ASCA の日本人職員・会員等 (約 1,000 人)、並びに本募金趣旨に賛同されるすべての皆様 | | | | | | | | | | | | |
| 6. 期 間 | 2012 年 4 月 1 日から 1 年間 | | | | | | | | | | | | |
| 7. 送金方法 | 次の 1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。
1) クレジットカード決済による送金 (下記ウェブサイトで手続きできます)
寄付のお申し込み http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html
*セキュリティ上の必要から、1 回の送金は上限 300,000 円 (参拾万円也) でお願いします。
2) 銀行振込みによる送金 (下記銀行口座にお振り込み下さい)
<table border="1" data-bbox="375 1275 1036 1404"><tr><td>銀 行 名</td><td>みずほ銀行 本郷支店</td></tr><tr><td>口座番号</td><td>普通預金 NO.2789045</td></tr><tr><td>口座名義</td><td>財団法人 アジア学生文化協会</td></tr><tr><td>住 所</td><td>東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121</td></tr></table>
3) 郵便振替による送金
<table border="1" data-bbox="375 1451 810 1522"><tr><td>郵便振替口座</td><td>00150-0-56754</td></tr><tr><td>加入者名</td><td>財団法人 アジア学生文化協会</td></tr></table> | 銀 行 名 | みずほ銀行 本郷支店 | 口座番号 | 普通預金 NO.2789045 | 口座名義 | 財団法人 アジア学生文化協会 | 住 所 | 東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121 | 郵便振替口座 | 00150-0-56754 | 加入者名 | 財団法人 アジア学生文化協会 |
| 銀 行 名 | みずほ銀行 本郷支店 | | | | | | | | | | | | |
| 口座番号 | 普通預金 NO.2789045 | | | | | | | | | | | | |
| 口座名義 | 財団法人 アジア学生文化協会 | | | | | | | | | | | | |
| 住 所 | 東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121 | | | | | | | | | | | | |
| 郵便振替口座 | 00150-0-56754 | | | | | | | | | | | | |
| 加入者名 | 財団法人 アジア学生文化協会 | | | | | | | | | | | | |

* 振替用紙は「アジアの友」に挟み込まれています

お問合せ先: (財) アジア学生文化協会 50 周年記念事業委員会事務局

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館

Tel.+81-3-3946-4121 Fax.+81-3-3946-7566 E-mail: asca50com@abk.or.jp